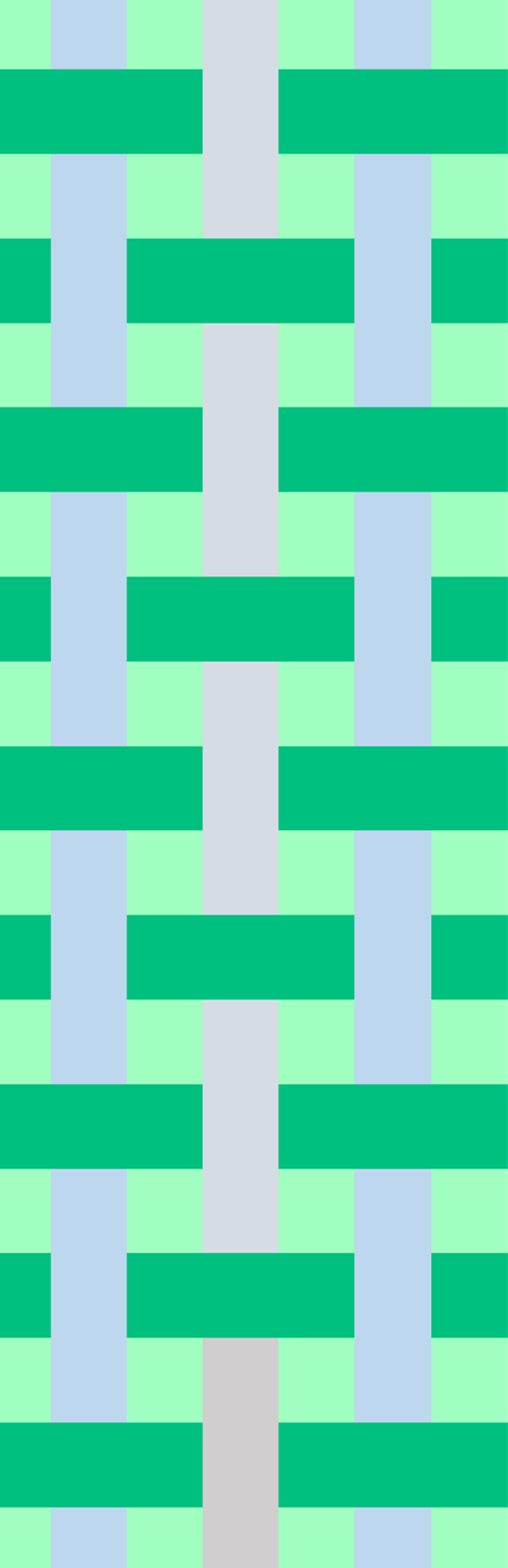




概要版

瀬戸内町 男女共同参画に 関する住民意識 調査報告書

2024年3月

大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町の奄美
大島4町村は、男女共同参画推進総合計
画の策定に向けて住民の意識や現状を把
握するため、共同で調査を実施しました。

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	
1 調査結果の概要	2
2 男女の地位の平等感について	3
3 固定的な性別役割分担意識について	10
4 家庭生活・地域活動について	13
5 子育てに関する考え方について	15
6 職業生活について	17
7 ジェンダーに起因する暴力について	18
8 男性としての生きづらさについて	21
9 生活上の困難について	23
10 男女共同参画施策について	27
11 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望	29

I 調査の概要

1 調査の目的

住民の男女平等感やジェンダーに関する意識、家庭や職場、地域における現状、抱えている困難な問題を把握し、男女共同参画社会の形成に向けた施策や地域づくりの参考にする。

2 調査の方法

- (1) 対 象 18 歳以上で瀬戸内町に居住する住民
- (2) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 回収状況 配布数：2,600 回収数：611（回収率 23.5%） 有効回収数：607（有効回収率 23.3%）
- (4) 調査期間 2023 年 8 月 1 日～31 日
- (5) 調査方法 大和村、宇検村、龍郷町の 3 町村と同じ調査票により共同で実施し、郵送による配布・回収

3 回答者の属性 単位：%

(1) 性別

	女 性	男 性	それ以外	無回答
割 合	50.2	47.6	0.0	2.1

(2) 年代

	18～29 歳	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
総 計	4.9	7.9	12.0	15.2	25.2	20.1	8.6	6.1
女 性	5.2	10.2	13.1	13.4	26.1	18.0	11.1	2.6
男 性	4.8	5.9	11.4	17.6	25.3	23.2	6.2	5.5

(3) 結婚の状況

	結婚している	事実婚	離別・死別	未婚	無回答
総 計	60.8	1.0	17.5	15.3	5.4
女 性	59.3	1.0	26.2	11.1	2.3
男 性	64.7	1.0	9.0	20.4	4.8

(4) 世帯構成

	単身世帯	夫婦世帯	二世帯世帯	三世帯世帯	その他	無回答
総 計	21.7	38.9	28.8	1.0	1.6	7.9

(5) 夫婦の就労状況

	二人とも仕事がある	自分のみ仕事がある	配偶者のみ仕事がある	どちらも仕事がない	その他	無回答
総計 (n=374)	50.4	14.7	8.8	15.7	2.9	7.5
女性 (n=204)	52.7	8.7	13.6	13.6	2.7	8.7
男性 (n=166)	48.4	20.0	4.2	17.9	3.2	6.3

(6) 仕事の状況

	正規雇用	非正規雇用	自営業主	家族従業者	無職	その他	無回答
総 計	27.8	17.1	13.2	2.1	30.8	1.8	7.1
女 性	20.0	23.9	13.8	2.6	33.8	2.0	3.9
男 性	37.8	10.7	13.1	1.7	29.1	1.7	6.2

※本書では、自営業主と家族従事者を「自営業者」という。

(7) 子どもの年齢（複数回答）

	乳幼児	小学生	中学生	高校・高専生・専門学校・短大・大学生	未婚の子ども	既婚の子ども
総 計	6.9	5.3	3.3	6.6	18.3	24.1
女 性	7.9	6.2	2.6	4.3	19.0	27.2
男 性	6.2	4.5	4.2	9.3	18.0	21.8

注：「小学生」：2011 年 4 月 2 月～2017 年 4 月 1 日生まれ

「中学生」：2008 年 4 月 2 月～2011 年 4 月 1 日生まれ

「未婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれの未婚（学生除く）

「既婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれで既婚（学生除く）

Ⅱ 調査結果

1 調査結果の概要

■男女の地位の平等感

- ・ 政治の場、社会慣習と慣習・しきたりで、男性の方が優遇されていると回答した割合が男女とも高い。
- ・ 男性は女性より平等、女性は男性より男性の方が優遇されていると回答した割合が高い。
- ・ 家庭生活、職場、学校教育の場では年代が高いほど、その他の分野では30～50代の女性が、男性の方が優遇されていると回答した割合が高い。
- ・ 町全体で見た場合に、男性が優遇されていると回答した割合は約6割。

■固定的な性別役割分担に関する意識と実態

- ・ 性別を理由に役割を固定的にわけろ考え方について、男女とも否定する割合が肯定する割合を大きく上回り、男性より女性のほうが高い。年代が高いほど肯定する割合が高い傾向にある。
- ・ 家事、育児、介護・看護については、男女とも妻が多く分担していると回答した割合が高い一方、地域活動については、女性は妻が多く分担、男性は夫が多く分担と回答した割合が高い。
- ・ 男女ともどの年代もほとんどが、性別にかかわらず生活力や経済力をつける教育や育て方が必要と回答しているものの、男の子は男の子らしく、女の子は女子らしく育てたほうがよいと回答した割合は、70代の男性では約8割、30代の女性は約2割など、性別と年代によって大きな開きがある。

■職業・職場生活

- ・ 子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよいと回答した割合は男女とも高いものの、男性より女性、高齢世代より若い世代のほうが高い。
- ・ 女性は、男女の格差はないと回答した割合が高いものの、40代女性では、他の性・年代より多くの項目で格差があると回答。男性は、正規と非正規による処遇格差のほか、男性が育児・介護休業を取得しづらいと回答した割合が高く、40代では4割を超える。

■デートDV・DV

- ・ 10～20代にデートDVの被害経験があったと回答した割合は、30代と50代の女性で高く約2割。
- ・ 結婚経験者（事実婚を含む。）のうちDVの被害経験があると回答した女性は2割だが、無回答が4割を超えるため、実際に経験した割合はもっと高い可能性がある。
- ・ デートDV・DVの被害経験者の相談先について、誰（どこ）にも相談しなかったと回答した割合が男女とも高い。女性は2～3割が友人・知人や家族・親戚に相談しているが、男性はその割合を下回る。

■男性の生きづらさや不便さ

- ・ 男性としての生きづらさや不便さを頻繁に、又はたまに感じると回答した割合は、全体では4分の1。その割合は30代と40代が高く、若い世代が高い傾向にある。

■生活上の困難（生活困窮、働く機会・場、健康、孤独、困っている時の支援、家族関係、災害や事件・事故）

- ・ 総じて男性より女性のほうが、生活の様々な場面で不安や困難を抱えていると回答した割合が高く、特に50代女性が高い。男性では70代が高い。
- ・ 相談窓口に対しては、DVなどの暴力の専門相談員のニーズが最も高く、次いで電話や匿名、24時間による相談、医療や心理、法律に関する相談費用の無料。

■男女共同参画社会を実現するため役場に求める施策

- ・ 役場が力を入れるべき施策については、保育・介護サービスの充実、政策決定の場への女性登用、再就職や就労支援と回答した割合が男女とも広い年代で高い。
- ・ 40代女性は、ほとんどの項目で回答した割合が高く、役場への期待が大きい傾向がみられる。

※本書では、回答者数が少ない18～29歳の分析を最低限にとどめています。

資料内の略記の詳記

「前回」：2018年度に本町が実施した『男女共同参画に関する町民意識調査』の結果

「奄美大島(4)町村」：2023年度に本町と大和村、宇検村、龍郷町が実施した『男女共同参画に関する住民意識調査』の集計結果

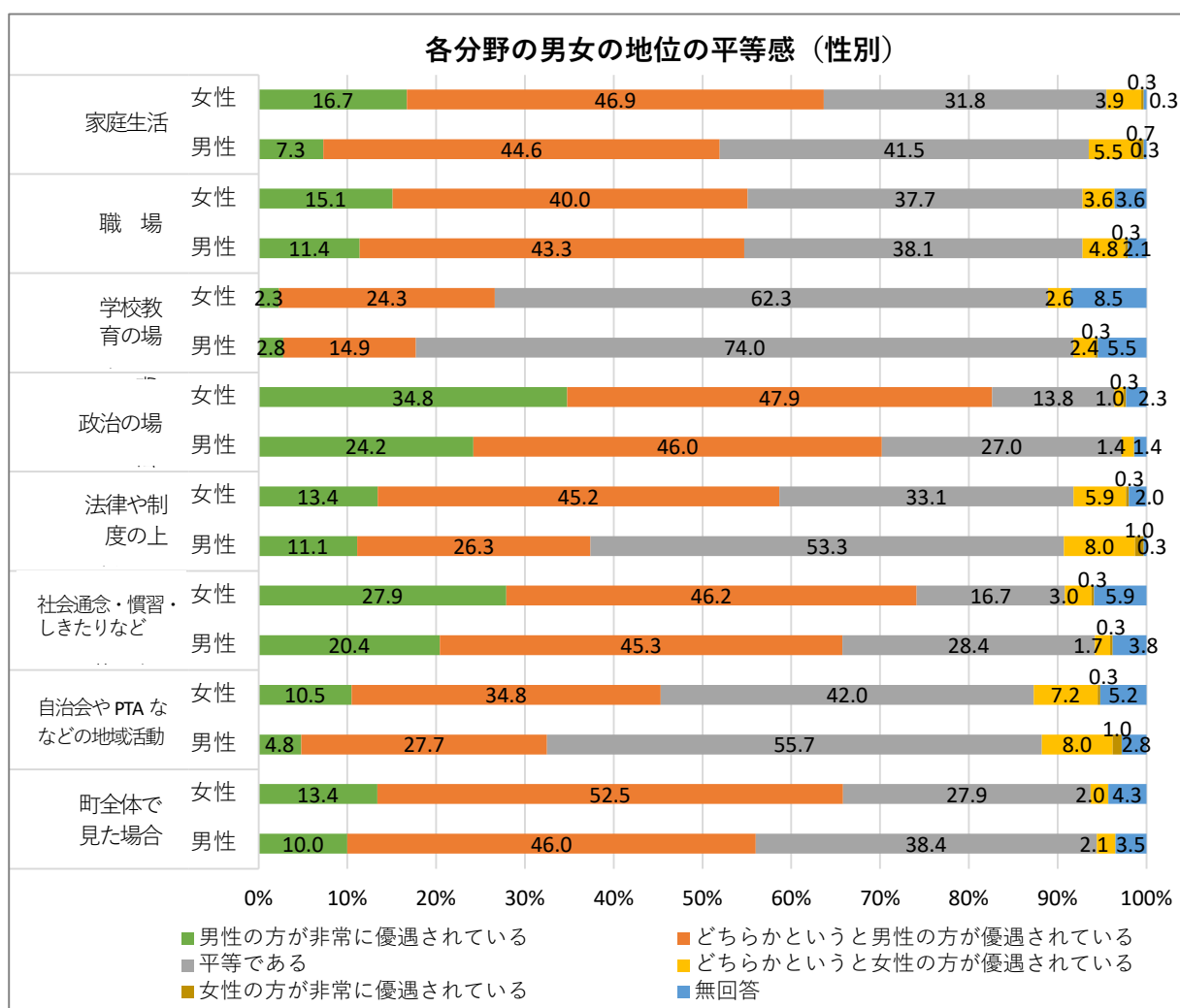
「県」：2021年度に鹿児島県が実施した『男女共同参画に関する県民意識調査』の結果

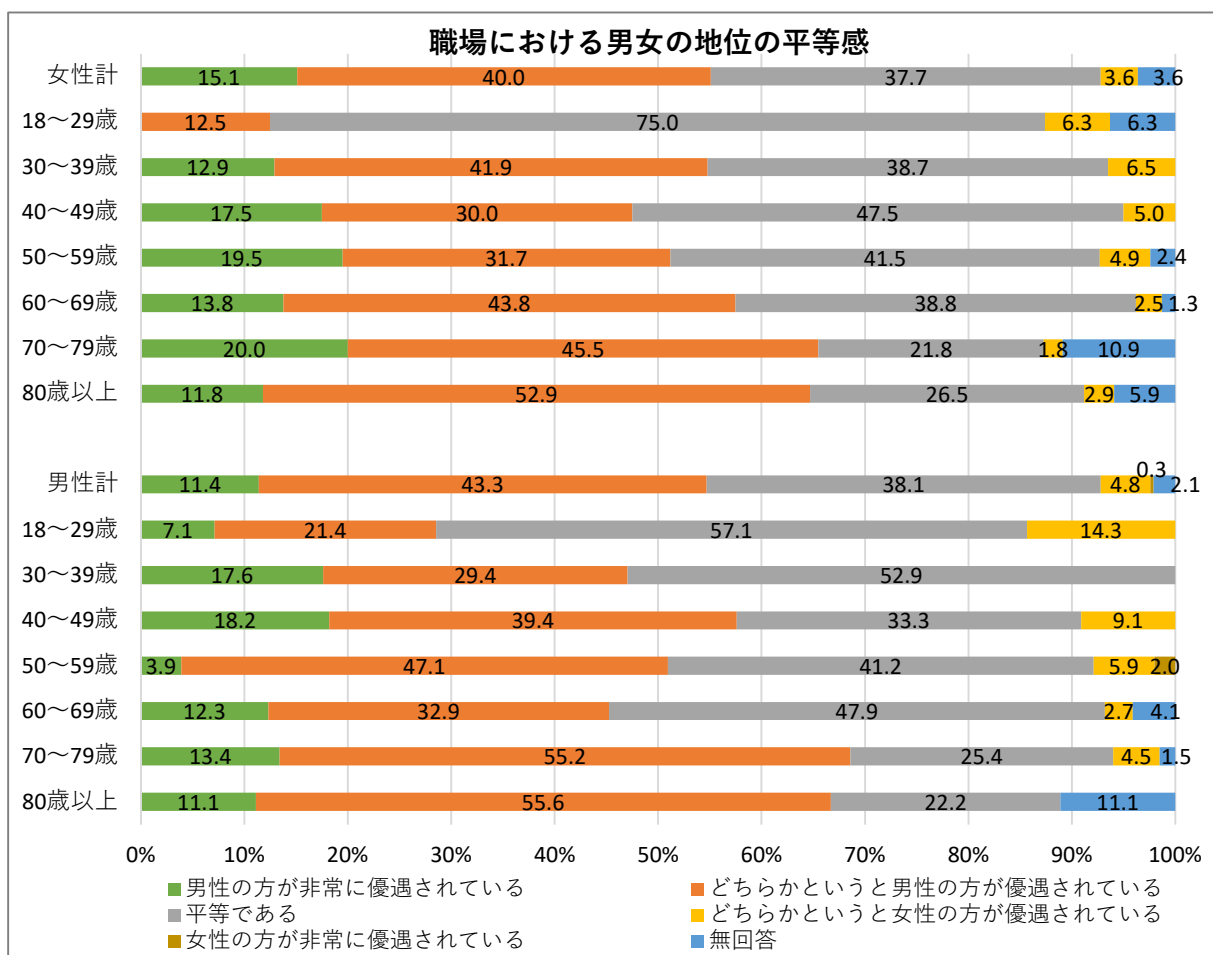
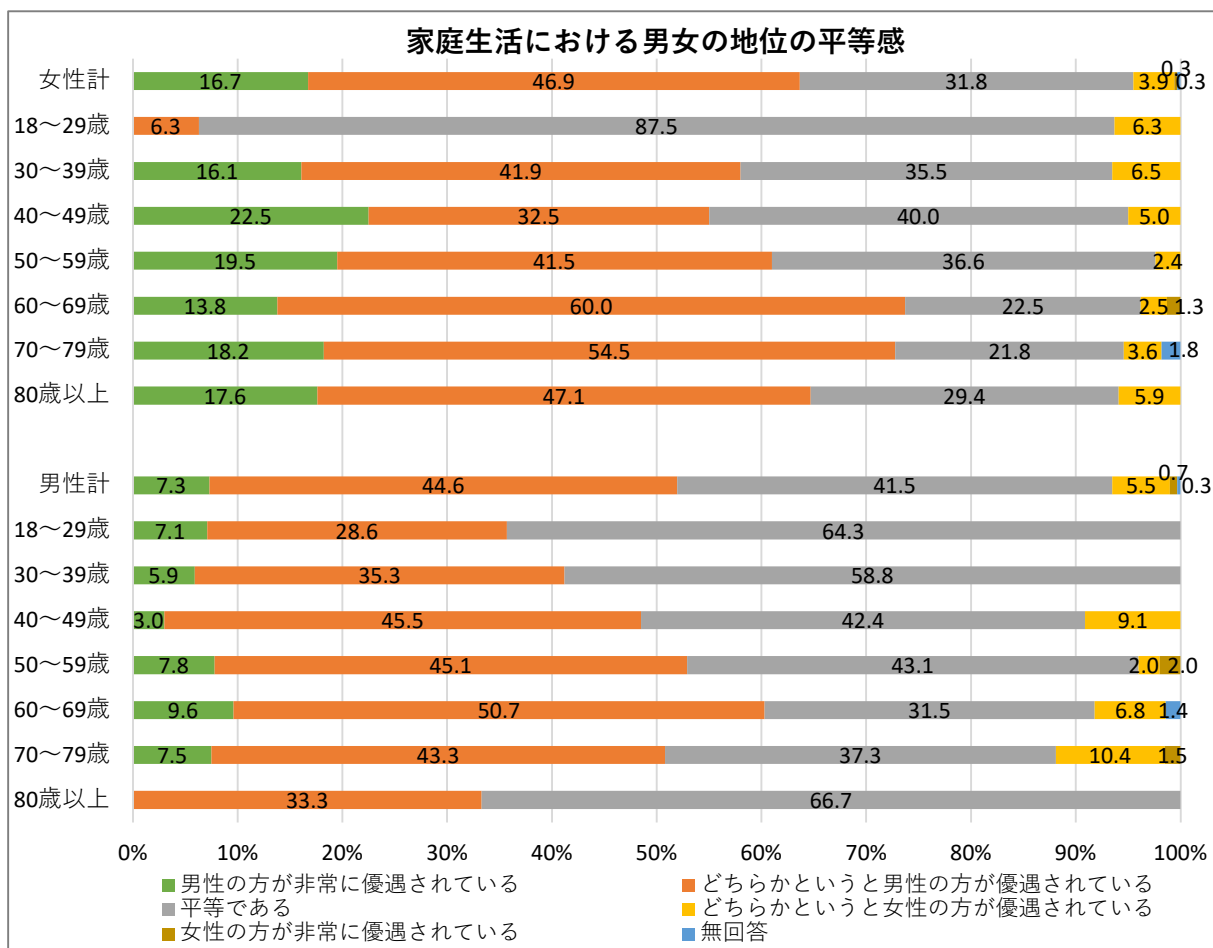
「全国」：2022年度に内閣府が実施した『男女共同参画に関する世論調査』の結果

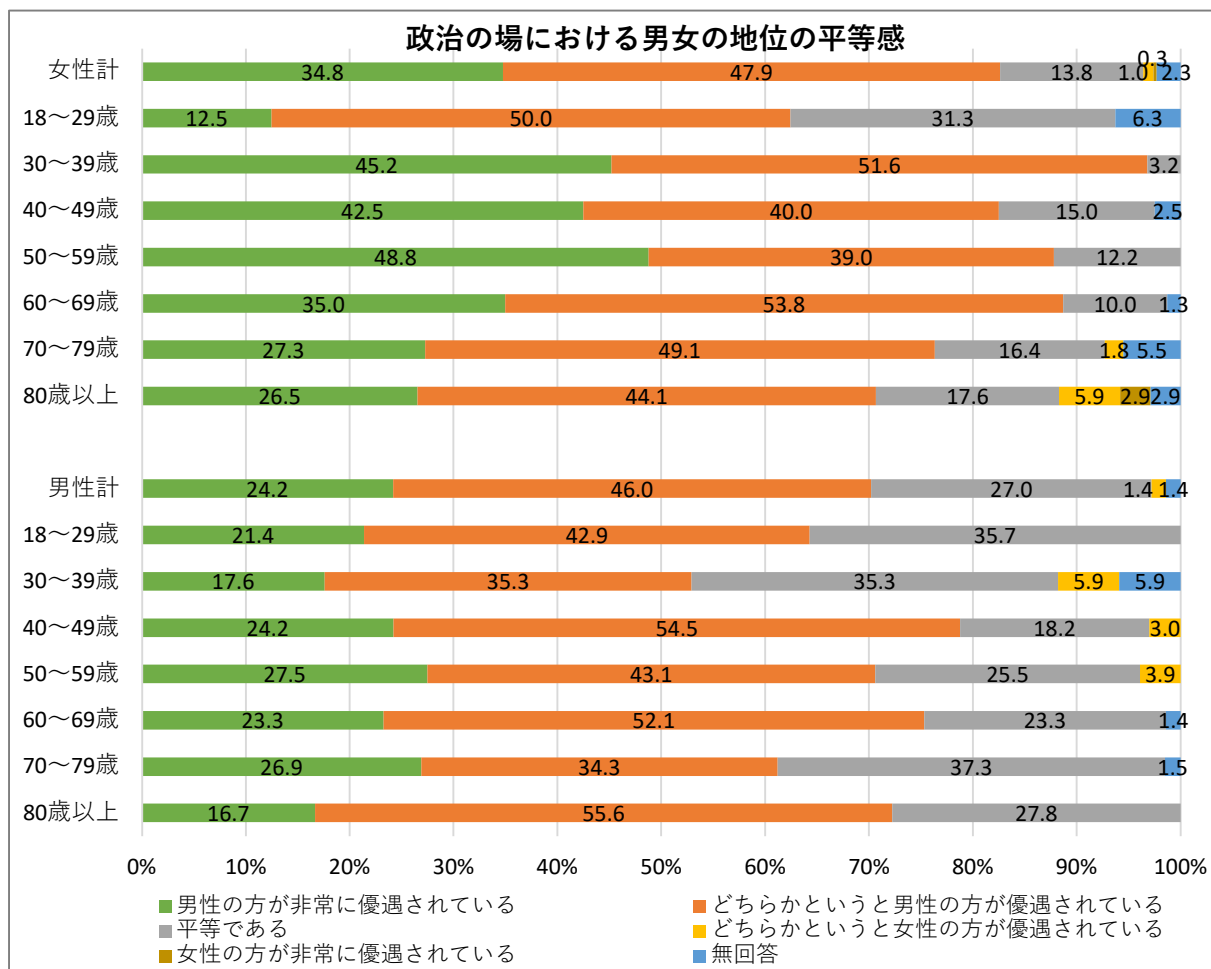
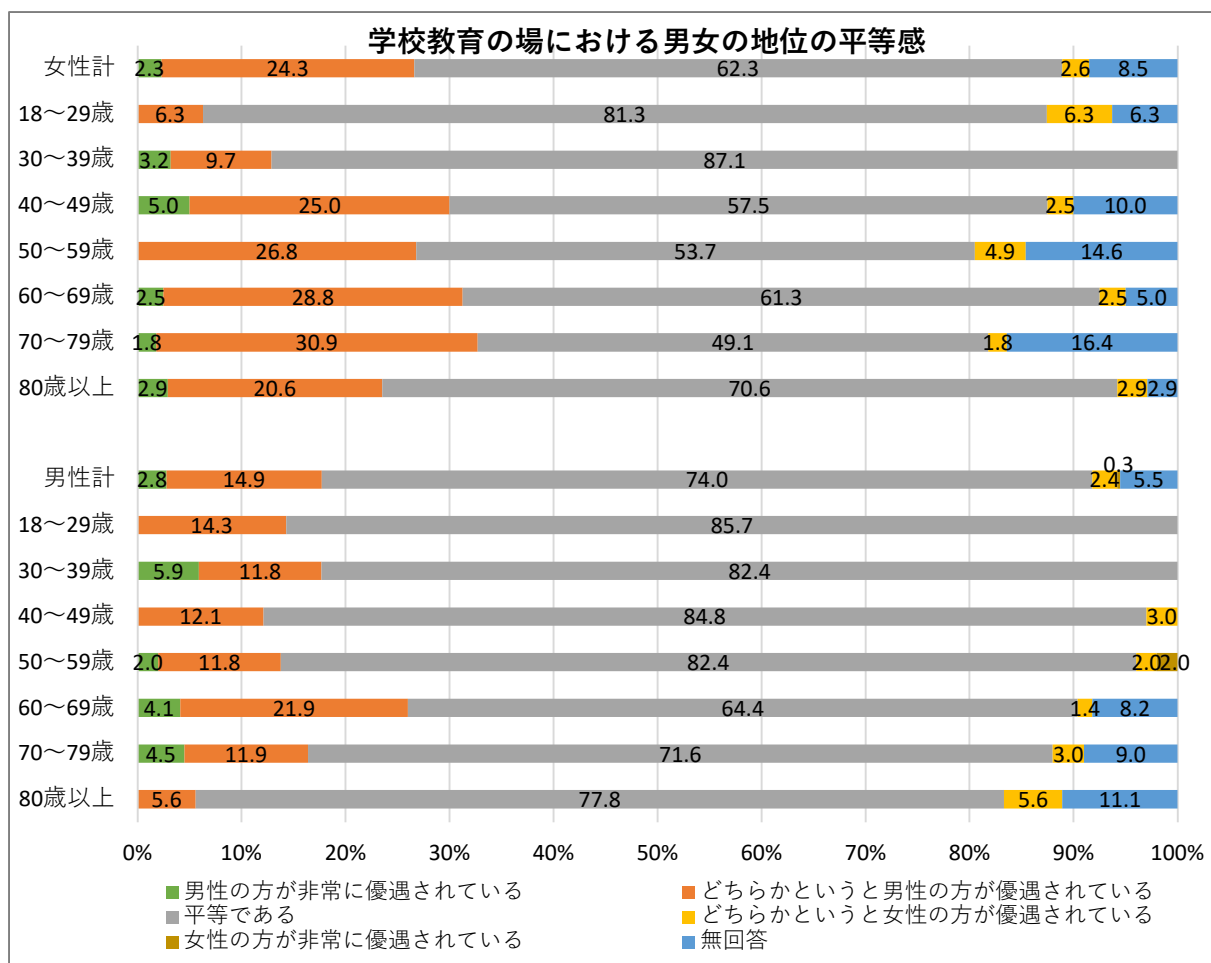
2 男女の地位の平等感について

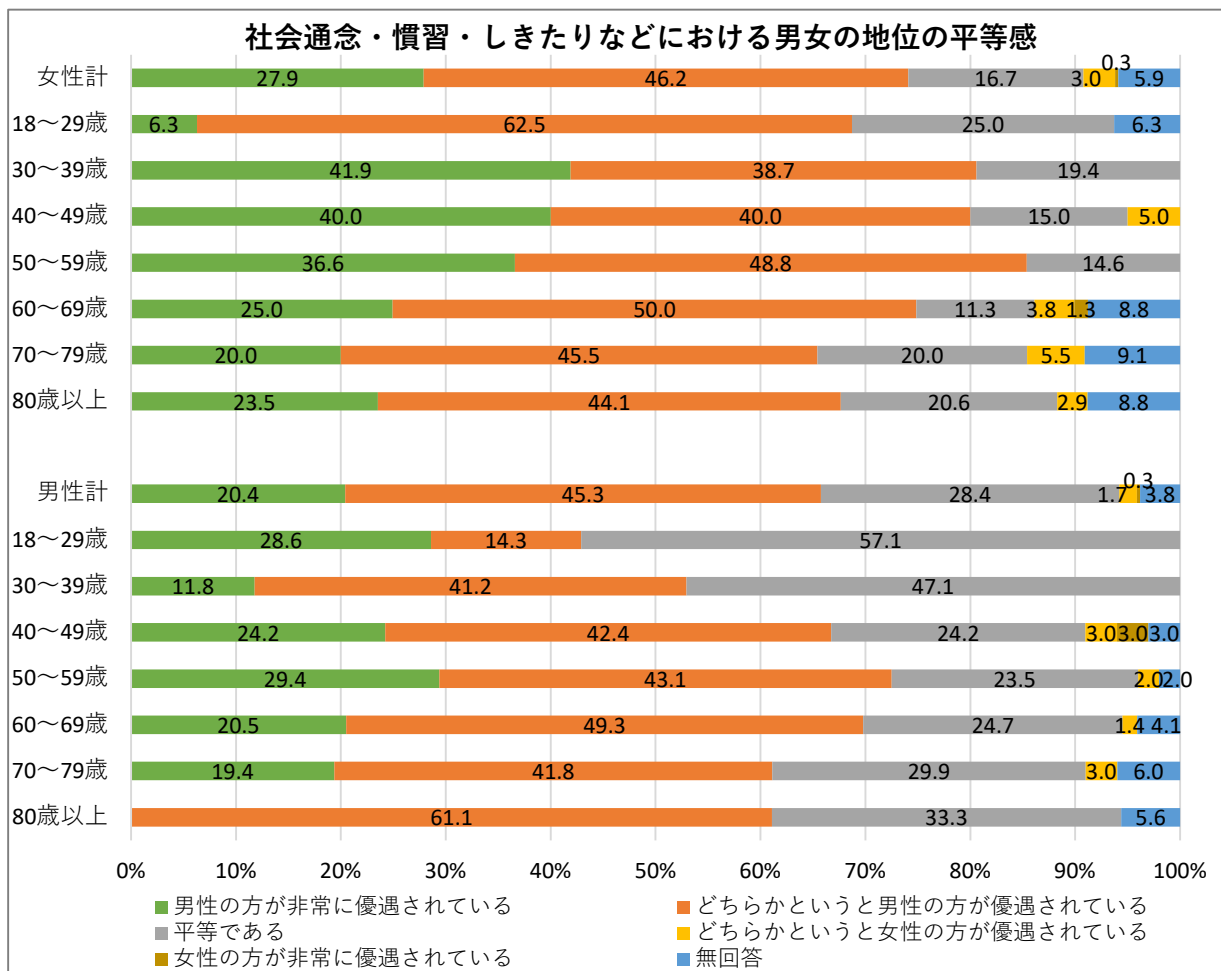
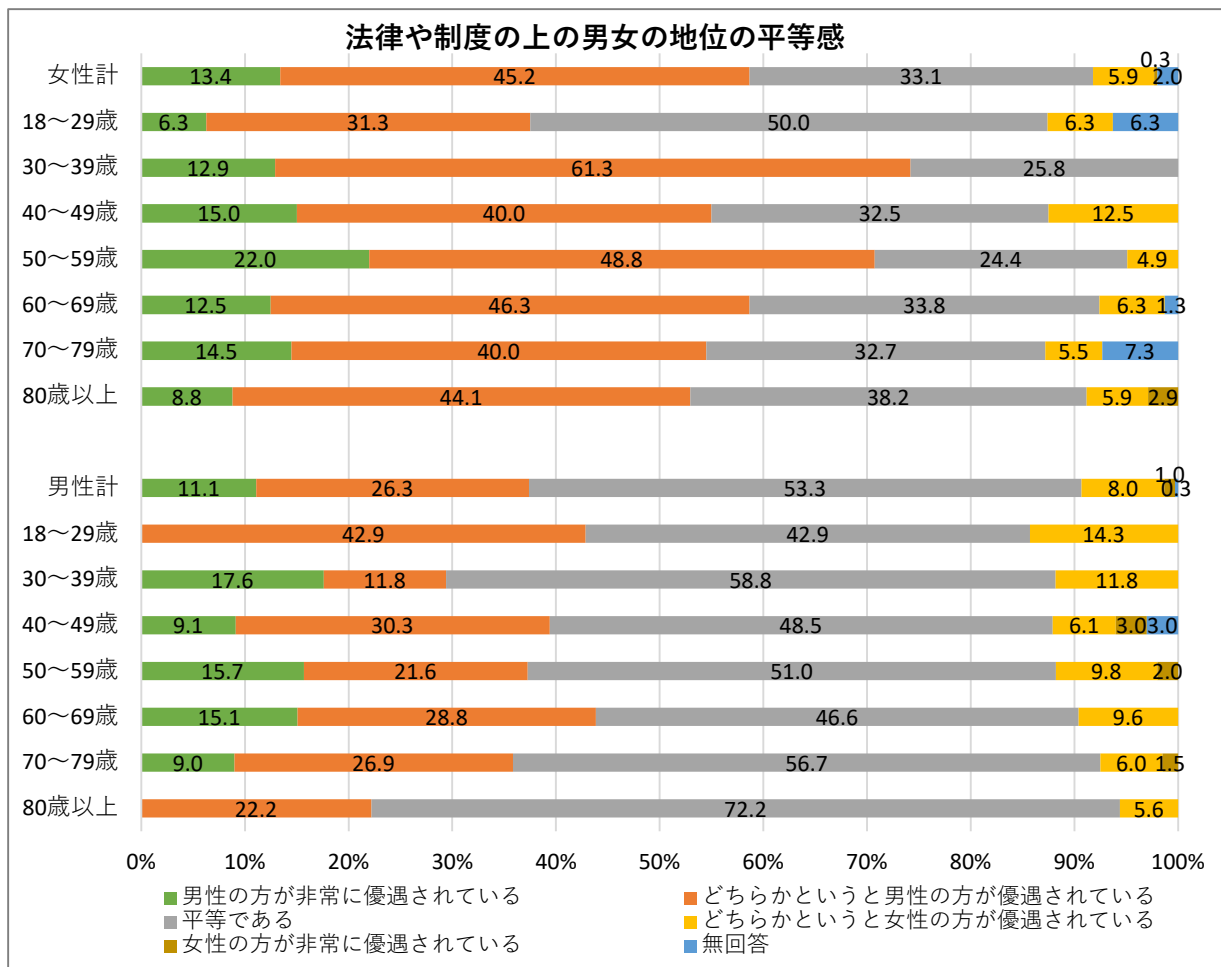
(1) 各分野の男女の地位の平等感

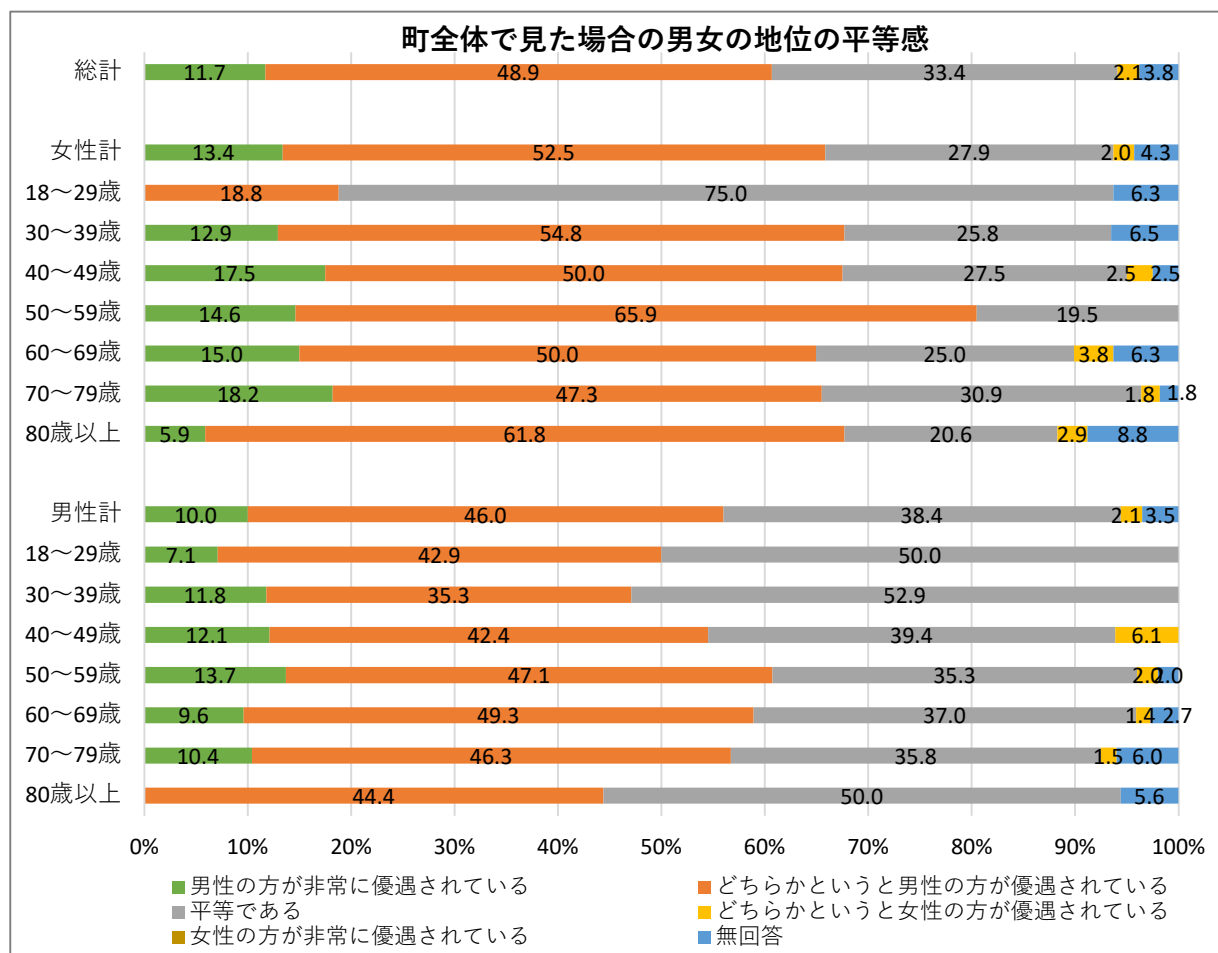
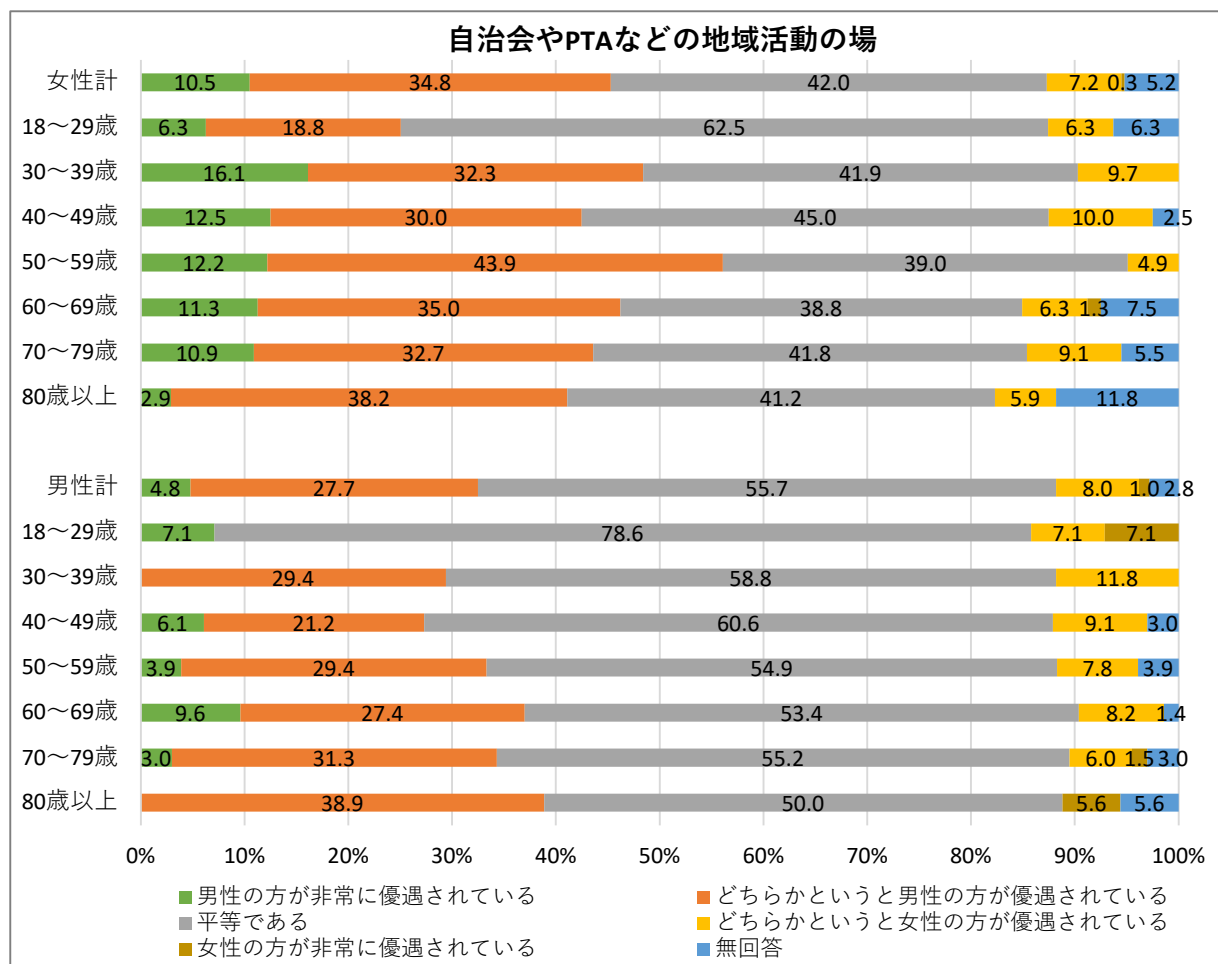
- ・ 7 分野の中で、男女の地位が『平等』と回答した割合が最も高いのは、「学校教育の場」。一方、『男性の方が非常に優遇』又は『どちらかといえば男性の方が優遇』（以下『男性優遇』）と回答した割合が高いのは、「政治の場」と「社会通念、慣習・しきたりなど」。
- ・ 『平等』と回答した割合は女性より男性が高く、『男性優遇』と回答した割合は男性より女性が高い。その男女の差が大きい分野は「法律や制度の上」、次いで「地域活動」、「政治の場」。
- ・ すべての性・年代で『女性優遇』と回答した割合は低い。
- ・ **家庭生活**において『男性優遇』と回答した割合は、年代が高いほど高い傾向にあり、50 代以上の女性と 60 代男性は 6 割を超える。
- ・ **職場**において『男性優遇』と回答した割合は、年代が高いほど高い傾向にあり、男女とも 70 代が最も高く、6 割を超えている。
- ・ **学校教育の場**においては、全ての年代で『平等』と回答した割合が高いものの、40・60・70 代女性の 3 割以上が『男性優遇』と回答。
- ・ **政治の場**においては、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が高く、特に 30～60 代女性は 8 割を超え、うち 30～50 代は『男性の方が非常に優遇』が 4 割超。
- ・ **法律や制度の上**においては、男性は全ての年代で『平等』と回答した割合が高い一方、女性は 30 代以上で『男性優遇』と回答した割合が高く、30・50 代は 7 割を超える。
- ・ **社会通念・慣習・しきたりなど**においては、ほぼ全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が高く、特に 30～60 代の女性と 50 代男性で 7 割超。うち 30・40 代の女性は『男性の方が非常に優遇』が 4 割を超える。
- ・ **自治会や PTA などの地域活動の場**においては、40 代以下の女性とすべての年代の男性で『平等』と回答した割合が高い一方、50～70 代の女性は『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高い。
- ・ **町全体で見た場合**においては、50 代が『男性優遇』と回答した割合が高く、女性 8 割、男性 6 割。











- ・ 青年団に比べ婦人会の仕事量にとっても多い。(30代女性)
- ・ 地域や学校の行事、PTA活動には女性が行く割合が高い。(30・40代女性)
- ・ 地域行事では男性は座って飲み、女性が忙しく動いていることが多い。(40代女性)
- ・ 地域において女性がボランティアに関わることは当たり前との風潮がある。(60代女性)
- ・ 集落の役員が全員男性(60代男性) ・ 集落の役員の数が、男性5：女性2(80代以上女性)
- ・ 女性にできない作業が多く、男性は大変だと思う。(70代女性)
- ・ 公民館や道路の作業は男女関係なくやるのに、公的トイレの掃除は女性だけの集落があるらしい。(年代不明女性)

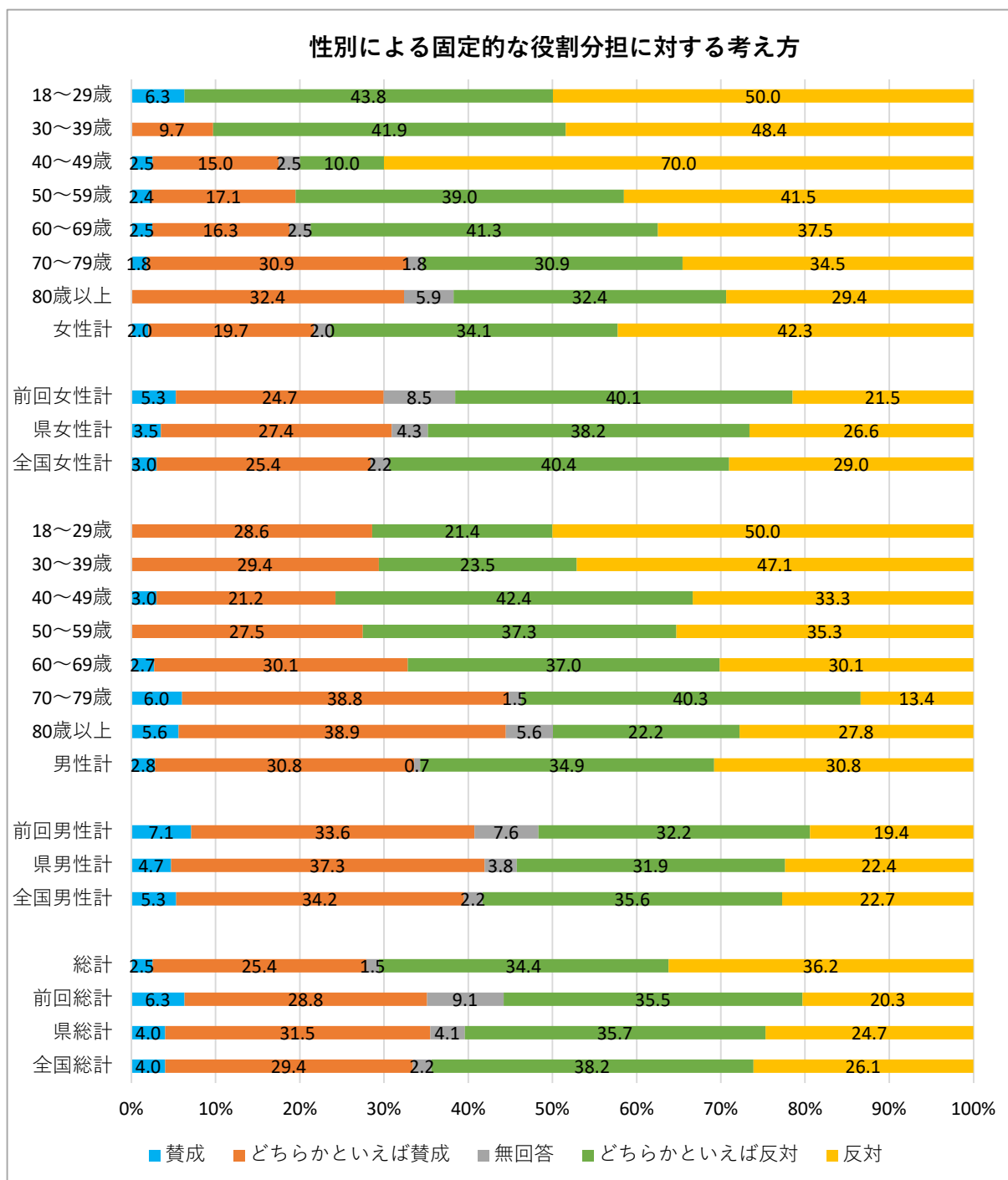
■全体・その他 (21件)

- ・ 今の社会では「男」「女」で不平等は決められず、見るべきは「個」だと思う。(30代男性)
- ・ 女性の意見が反映されない、通らないことが多い。(30・40代女性、年代不明男性)
- ・ 子どもや家庭に関することは女性、他のことは男性が家長として集会や会合に参加することが多い。(40代女性)
- ・ 家事の負担が大きくて働きづらい女性が多かったり、PTA活動の交流や懇談の席は男性の参加が多く、その時女性の多くは家で子どもを見ているなど、まだまだ社会は男性中心と感じる。(40代女性)
- ・ 家事・育児を夫・父親は「手伝ってやる」、妻・母親は「手伝ってもらっている」という感覚。男女とも潜在的に男性優位意識。(40代女性)
- ・ 要職に就いているのは男性が大半で、女性だと珍しがられる。(40代女性)
- ・ (少しずつ増えているが)授乳室が男子トイレになかった時。(40代女性)
- ・ 問い合わせをしてくる人は「男の人はいないか」と言い、男性の意見に納得する。(50代女性)
- ・ 男女共同参画を声高らかに叫んでいる間は不平等は解消されない。(50代男性)
- ・ コンプライアンスが行き届く職場等では男女はほぼ平等だが、家庭内や地域社会は男性が優遇されている。(50代男性)
- ・ 集落等の役員に女性が少ないのは、女性が積極的に関わろうとしないことも原因。イベントや会議などいろいろな機会に女性の活躍の場を多く提供してほしい。(60代女性)
- ・ 高齢者ほど男女共同参画を理解していない。(70代女性)
- ・ 瀬戸内町においては、男女以前に学識経験者の優遇がひどすぎる。(70代女性)
- ・ 男と女は違うから家庭や職場でやることは違って平等。力仕事はどうしようもない。(70代男性)
- ・ 私が40代の頃は「女性は家庭」という時代で、現在の男女平等が信じられない。(80代以上女性)
- ・ 体力的に男性の方が優位。(80代以上女性)
- ・ 両立、三立、五立しているのは女性。なぜ女性は何でもしなければならぬのか？男女平等なんてない。(年代不明女性)
- ・ 男性は面倒なことや細かいことをしたがらず、結論を急ぐことが多い。(年代不明男性)

3 固定的な性別役割分担意識について

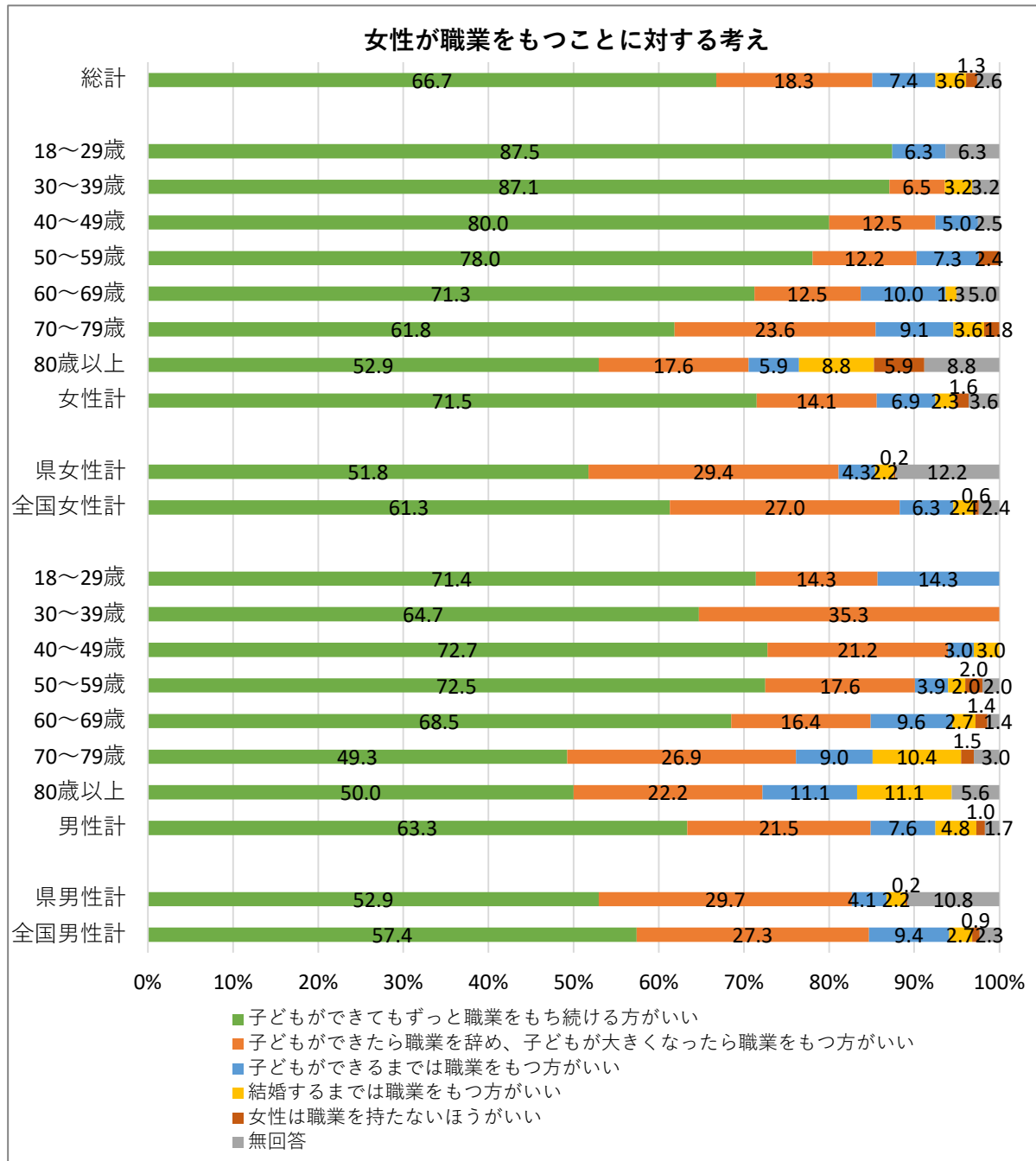
(1) 性別による固定的な役割分担に対する考え方

- ・ 「男性(夫)は外で働き、女性(妻)は家庭を守るべきである」といった性別を理由に役割を固定的にわけ
る考え方について、「反対」又は「どちらかという反対」(以下『否定』)と回答した割合が、「どちらかとい
うと賛成」又は「賛成」(以下『肯定』)と回答した割合を大きく上回り、男性より女性の方が高い。
- ・ 前回調査と比較すると、男女とも『否定』と回答した割合が上昇しているが、特に女性の「反対」の上昇幅
が大きい。
- ・ 県及び全国と比較すると、男女とも『否定』の割合は上回り、特に女性の「反対」と回答した割合が大きく上回る。
- ・ 『否定』の割合は、女性では30代以下が9割を超え、40～60代が約8割、男性は40代が最も高い。うち「反対」と回答
した割合は、40代女性で7割、30代以下の男女で約5割。
- ・ 『肯定』の割合は、男女とも年代が若いほど高くなる傾向がある。



(2) 女性が職業を持つことに対する考え

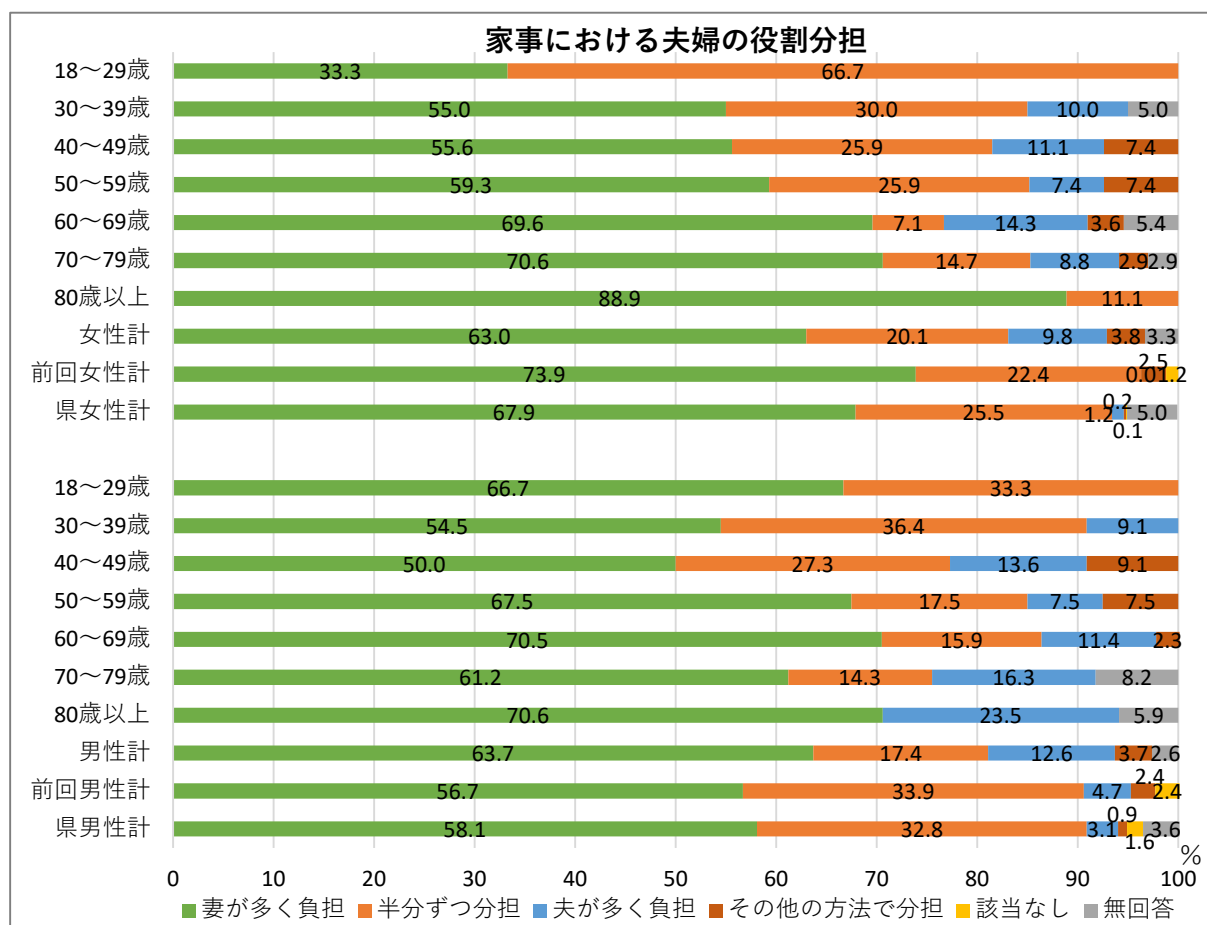
- ・ 女性が職業を持つことについて、『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合が、男女とも最も高く、男性より女性が高い。また、国や県の割合を上回る。
- ・ 『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合は、男女とも年代が低いほど高い傾向があり、40代以下の女性は8割以上であるが、70代以上の男性は約5割にとどまる。
- ・ 30代男性は、『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』と回答した割合が3割を超え、全ての性・年代の中で最も高い。

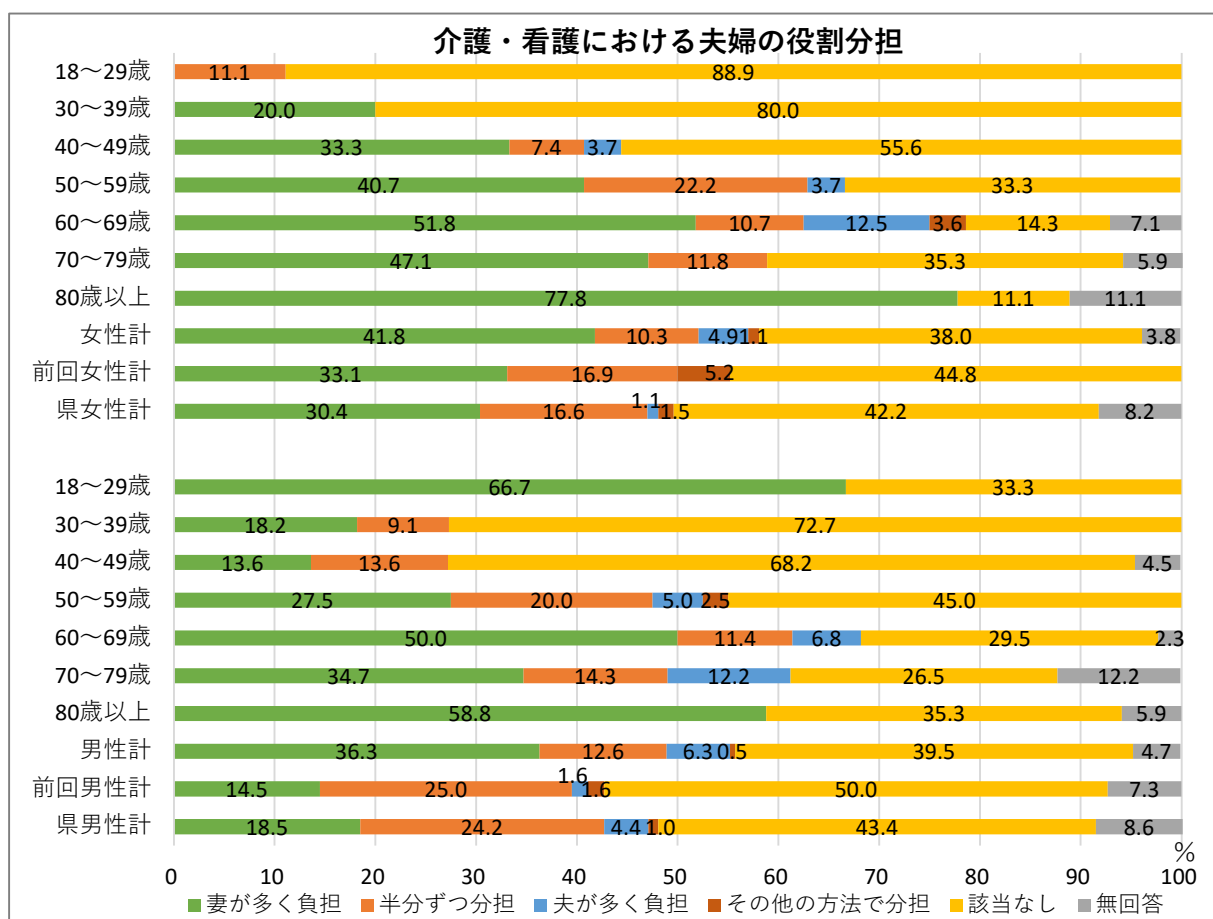
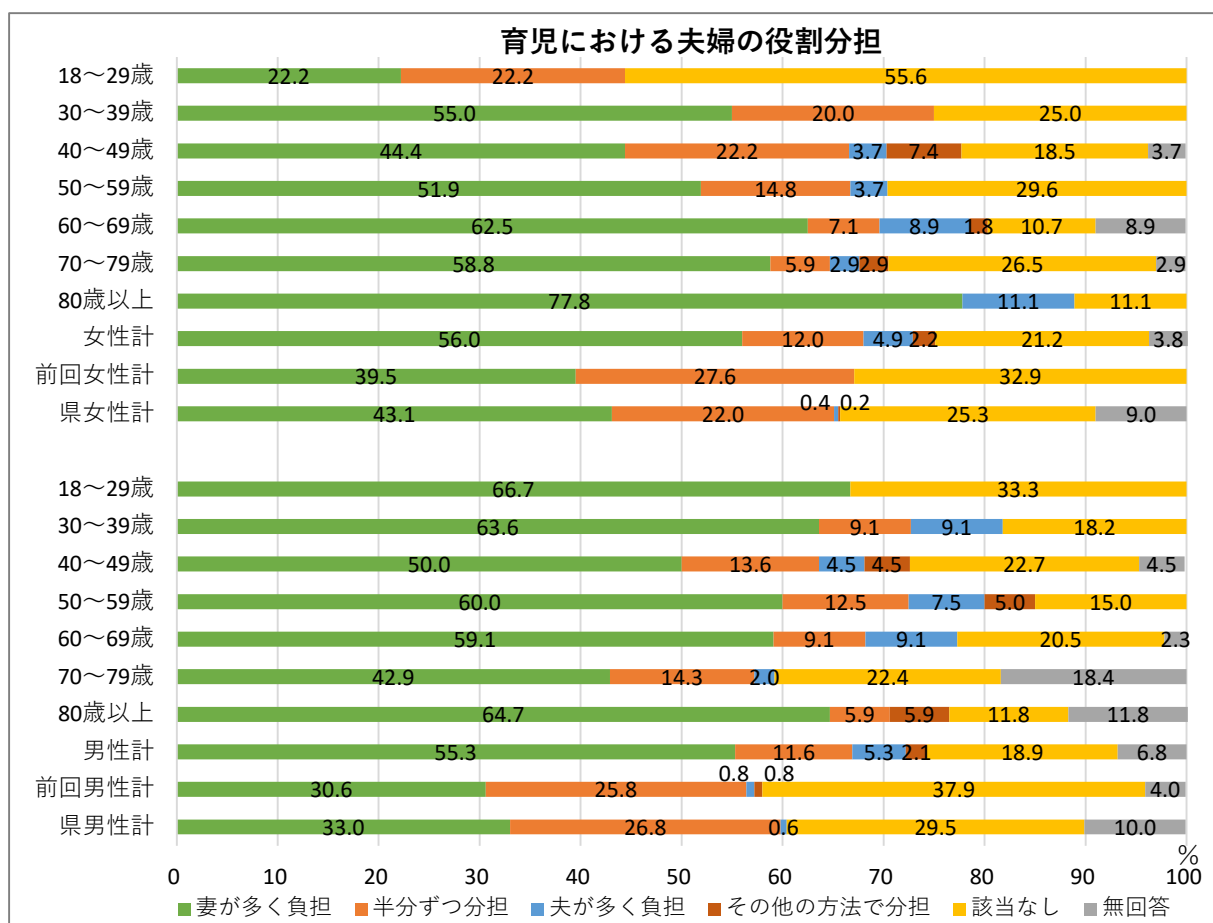


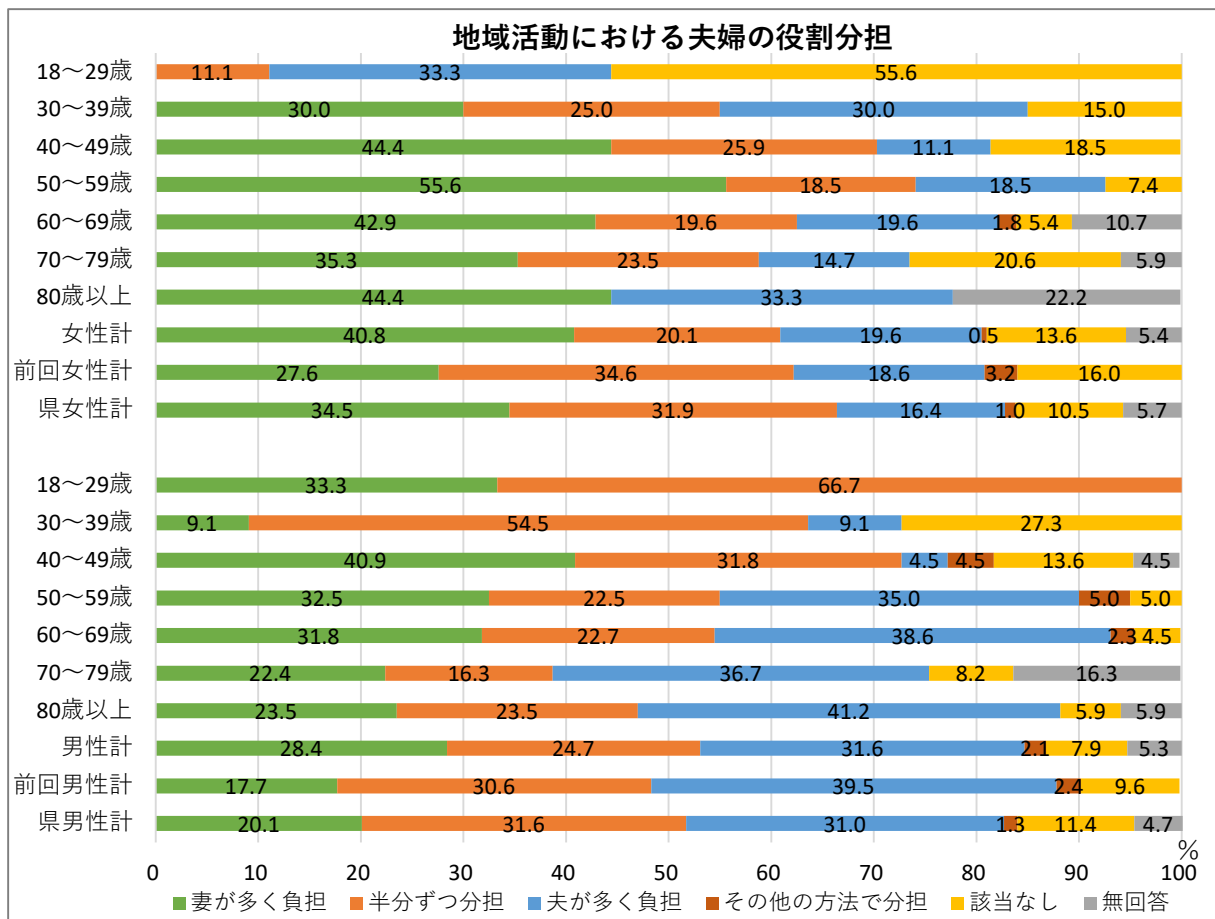
4 家庭生活・地域活動について

(1) 家事、育児、介護・看護、地域活動における夫婦の役割分担

- ・ 結婚（事実婚を含む。）している男女とも、「家事」、「育児」、「介護・看護」については、「妻が多く分担」と回答した割合が高く、特に60・70代が高い。
- ・ 「地域活動」については、女性は「妻が多く分担」と回答した割合が高く、特に40代以下で高い。一方、男性は「夫が多く分担」と回答した割合が高く、特に50～70代が高い。
- ・ 前回の調査と比較すると、男女とも「育児」、「介護・看護」、「地域活動」について「妻が多く分担」と回答した割合が上昇。「家事」については、「妻が多く分担」と回答した割合が女性で低下し、男性は上昇。
- ・ 県と比較すると、家事における女性の回答以外は「妻が多く分担」と回答した割合が上回り、「半分ずつ分担」と回答した割合が下回る。

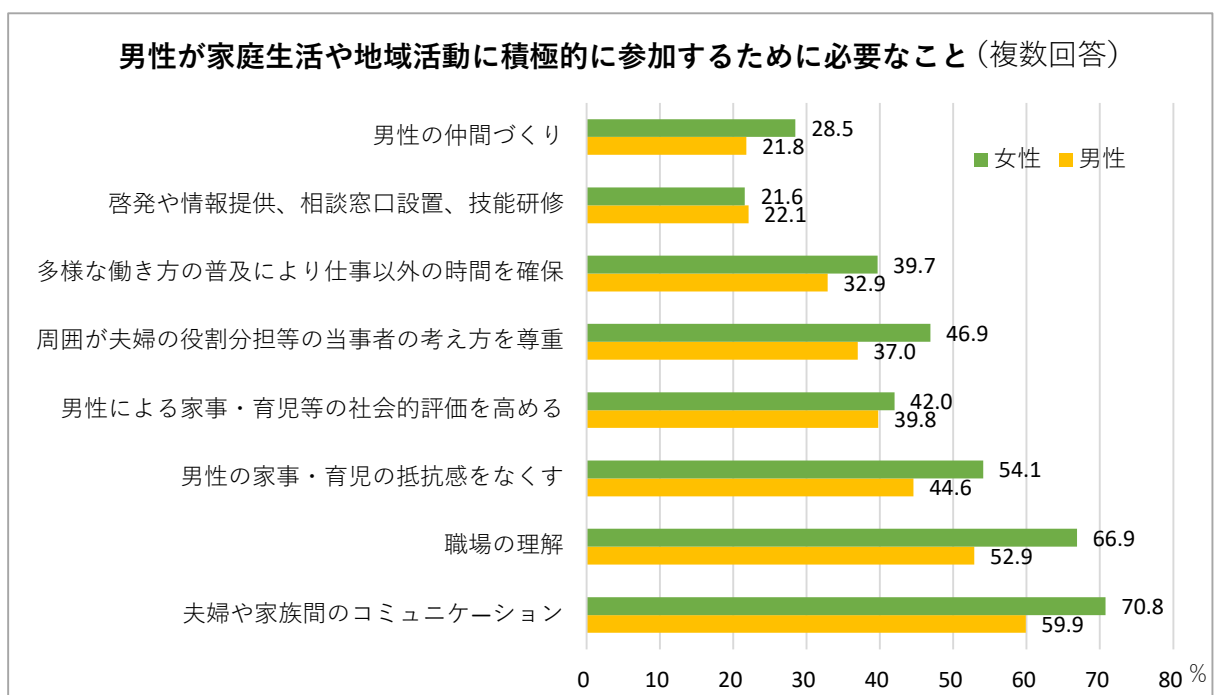






(2) 男性が家庭生活や地域活動に積極的に参加するために必要なこと

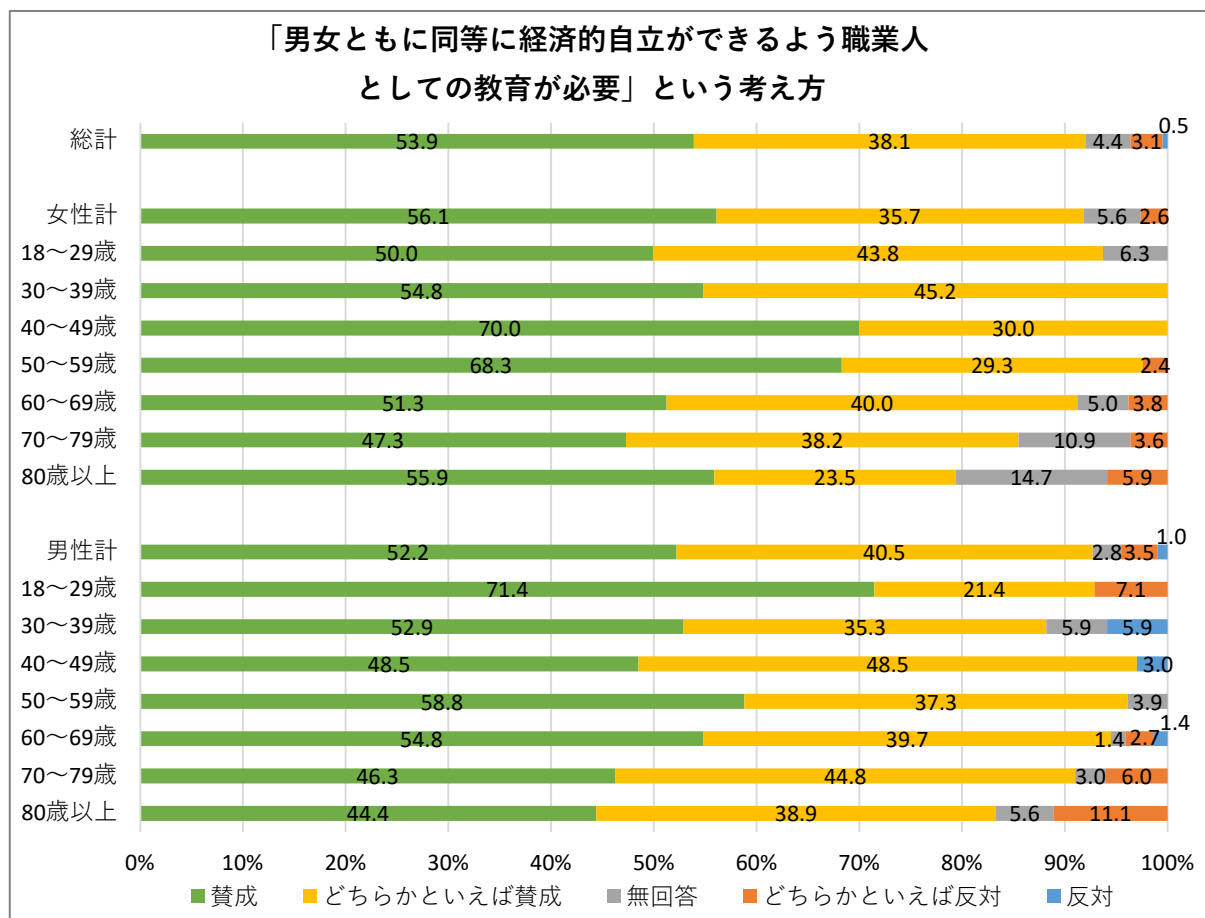
- ・ 男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについては、『夫婦や家族間のコミュニケーション』と『職場の理解』と回答した割合が男女とも高く、女性は『男性の家事・育児の抵抗感をなくす』も5割を超える。
- ・ 女性はほぼ全ての項目で男性より回答率が高い。

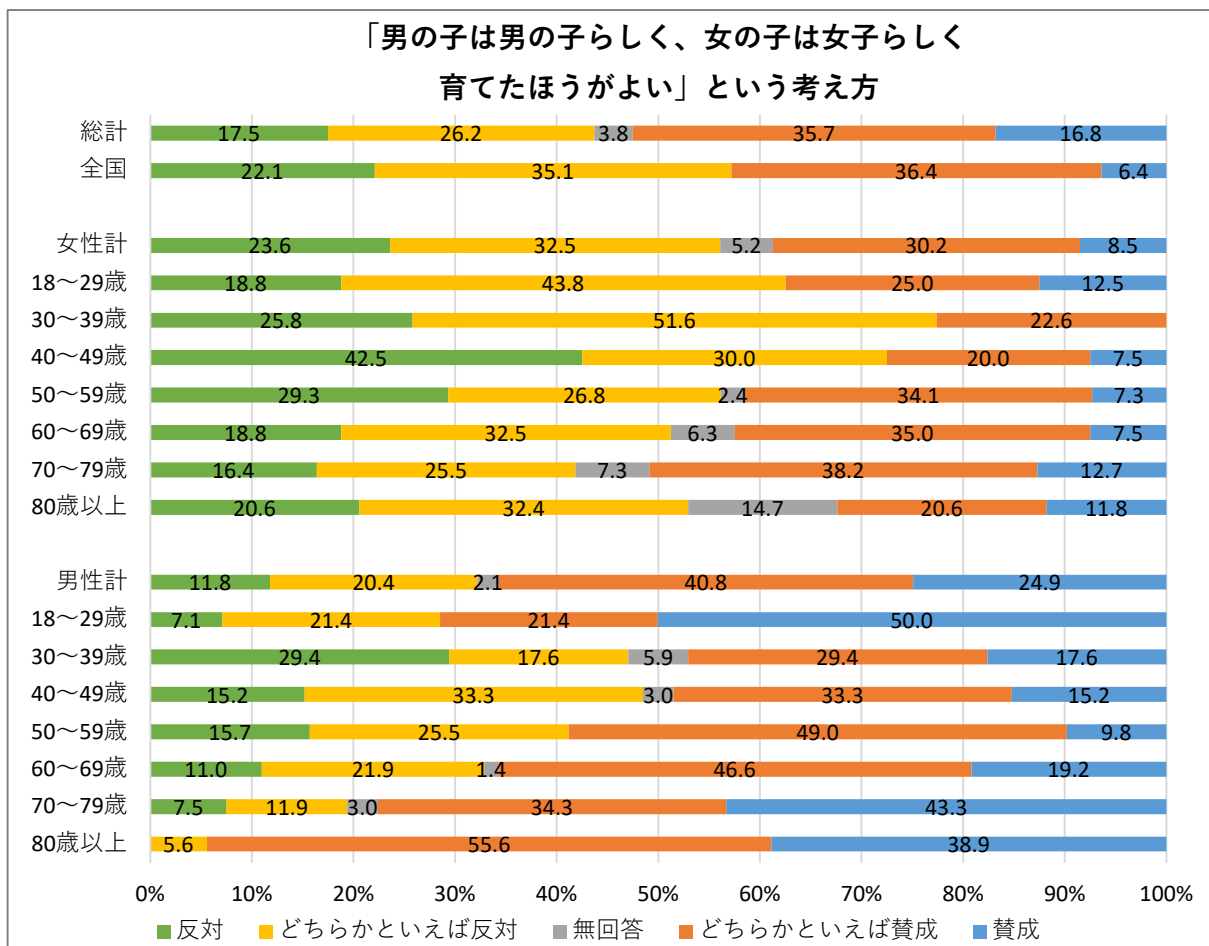
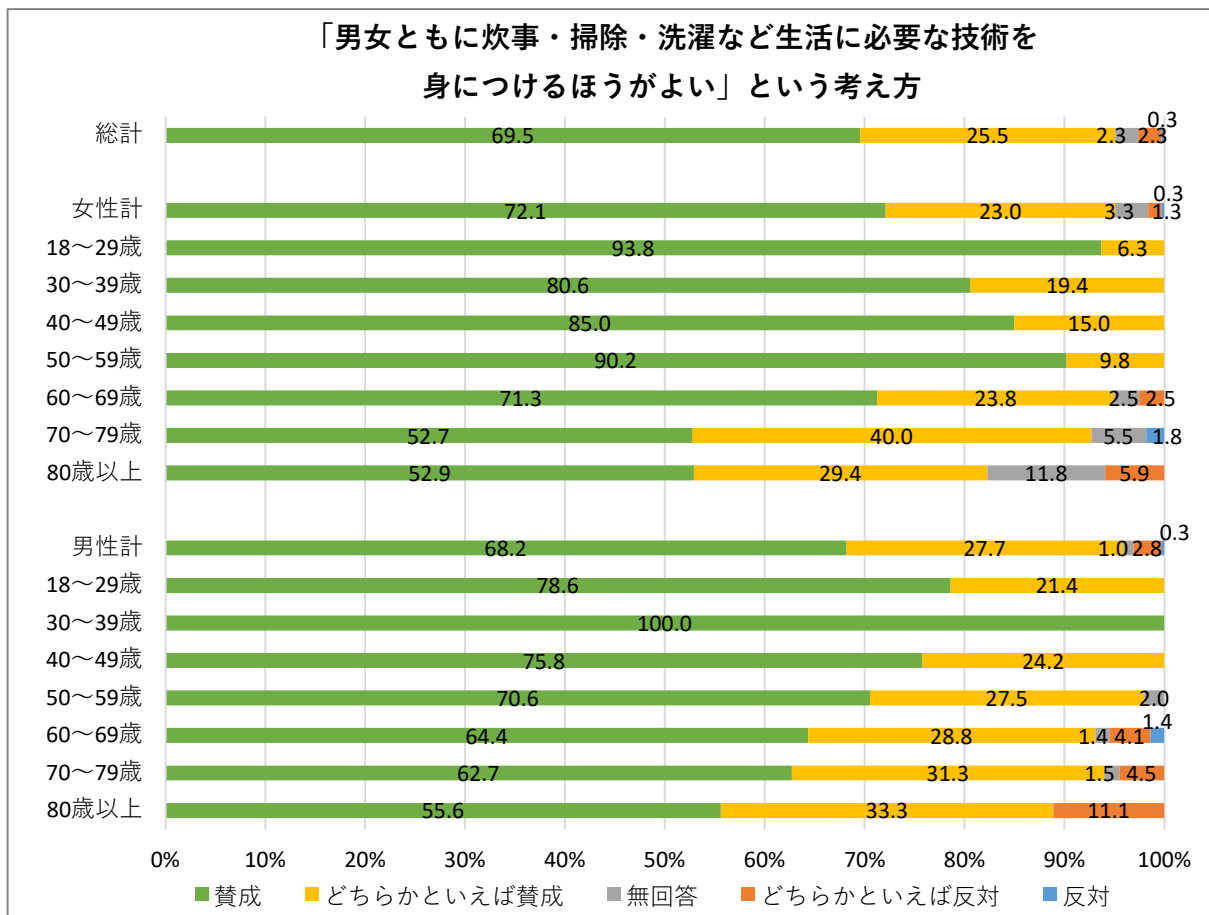


5 子育てに関する考え方について

子育てに関する考え方

- ・ 子育てについて、『男女ともに同等に経済的自立ができるよう職業人としての教育が必要』という考え方と『男女ともに家事など生活に必要な技術を身につけたほうがよい』という考え方に「賛成」又は「どちらかといえば賛成」(以下『賛成計』)と回答した割合は、男女とも9割超で、年代が低いほど高い傾向にある。また、後者のほうが前者より「賛成」と回答した割合が高い。
- ・ 『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい』という考え方について、『賛成計』の割合は、男性のほうが女性より高く、男女とも年代が高いほど高い傾向にある。男性の70代以上は『賛成計』が7割を超える一方、30・40代の女性は『反対計』が7割を超える。

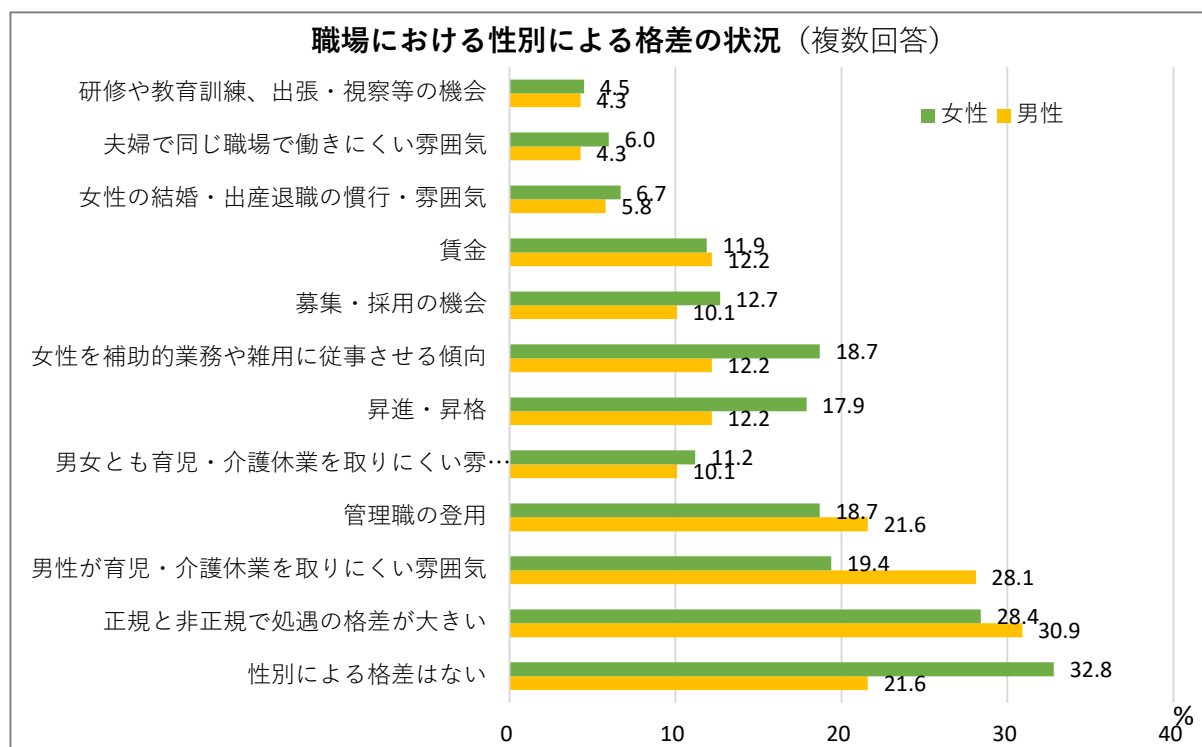




6 職業生活について

職場における性別による格差の状況

- ・ 職場における性別による格差について、被雇用者の女性は『男女格差なし』、男性は『正規と非正規による処遇』と『男性が育児・介護休業を取得しづらい』と回答した割合が最も高い。
- ・ 『女性に補助・雑用業務』や『昇進・昇格』は女性が男性より、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』は男性が女性より、回答した割合が高い。
- ・ 40代女性は、『正規と非正規による処遇』、『昇進・昇格』、『募集・採用の機会』など多くの項目で全性・年代の中で回答した割合が高い傾向にあり、格差の認識が高い傾向が見られる。
- ・ 『男性が育児・介護休業を取得しづらい』と回答した割合が高いのは、40代男性で4割超。



職場における性別による格差の状況（複数回答）

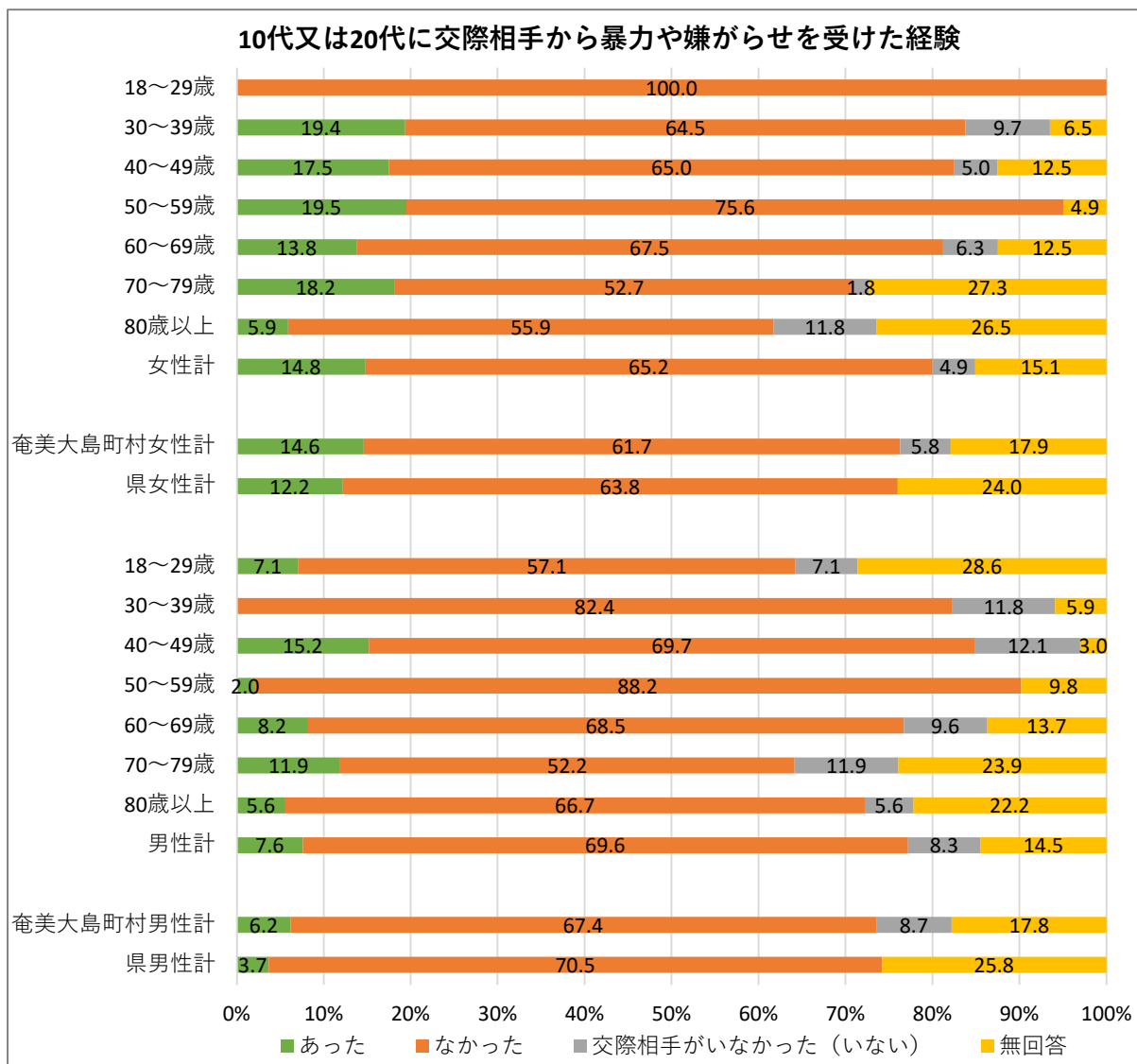
単位：％

	正規と非 正規で処 遇の格差 が大きい	男性が育 児・介護 休業を取 りにくい 雰囲気	管理職の 登用	男女とも 育児・介 護休業を 取りにく い雰囲気	昇進・昇 格	女性を補 助的業務 や雑用に 従事させ る傾向	募集・採 用の機会	賃金	女性の結 婚・出産 退職の慣 行・雰囲 気	夫婦で同 じ職場で 働きにく い雰囲気	研修や教 育訓練、 出張・視 察等の機 会	性別によ る格差は ない
総計	29.7	23.8	20.1	10.6	15.0	15.4	11.4	12.1	6.2	5.1	4.4	27.1
女性計	28.4	19.4	18.7	11.2	17.9	18.7	12.7	11.9	6.7	6.0	4.5	32.8
18～29歳	15.4	15.4	7.7	—	7.7	15.4	—	—	—	—	—	53.8
30～39歳	15.0	15.0	35.0	15.0	15.0	25.0	15.0	10.0	10.0	—	5.0	20.0
40～49歳	41.4	27.6	34.5	13.8	37.9	24.1	24.1	17.2	6.9	17.2	10.3	34.5
50～59歳	33.3	14.8	11.1	18.5	14.8	18.5	11.1	14.8	3.7	—	3.7	33.3
60～69歳	30.6	22.2	8.3	5.6	11.1	13.9	5.6	8.3	5.6	5.6	—	27.8
男性計	30.9	28.1	21.6	10.1	12.2	12.2	10.1	12.2	5.8	4.3	4.3	21.6
18～29歳	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	50.0
30～39歳	20.0	20.0	26.7	13.3	6.7	26.7	—	13.3	20.0	6.7	—	26.7
40～49歳	34.6	42.3	26.9	23.1	23.1	19.2	11.5	7.7	7.7	7.7	3.8	11.5
50～59歳	40.0	30.0	22.5	7.5	5.0	5.0	7.5	5.0	—	—	2.5	20.0
60～69歳	27.0	29.7	13.5	5.4	13.5	10.8	13.5	18.9	2.7	5.4	8.1	21.6

7 ジェンダーに起因する暴力について

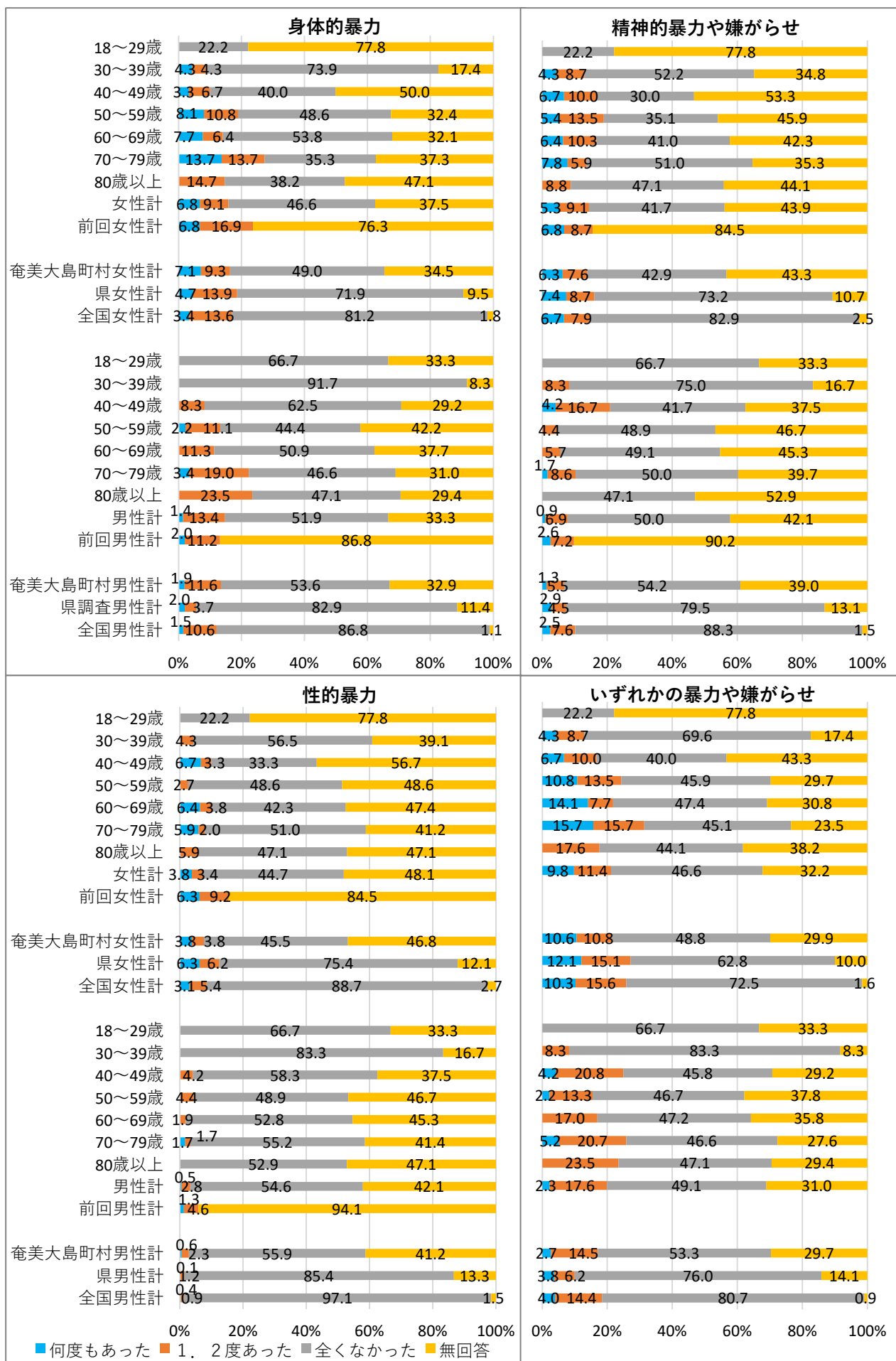
(1) 交際相手や元交際相手から暴力を受けた経験

- ・ 10代又は20代に交際相手や元交際相手から身体的・精神的・性的暴力のいずれかの暴力を受けた経験があると回答した割合は、女性は14.8%、男性は7.6%。
- ・ いずれかの暴力を受けた経験があると回答した割合が高いのは、30・50代女性で約2割。
- ・ 男女とも50代以上は年代が高いほど「無回答」の割合が高い傾向。
- ・ 県と比較すると、いずれかの暴力を受けた経験があると回答した割合は男女とも高くなっている。



(2) 配偶者や元配偶者からの暴力を受けた経験

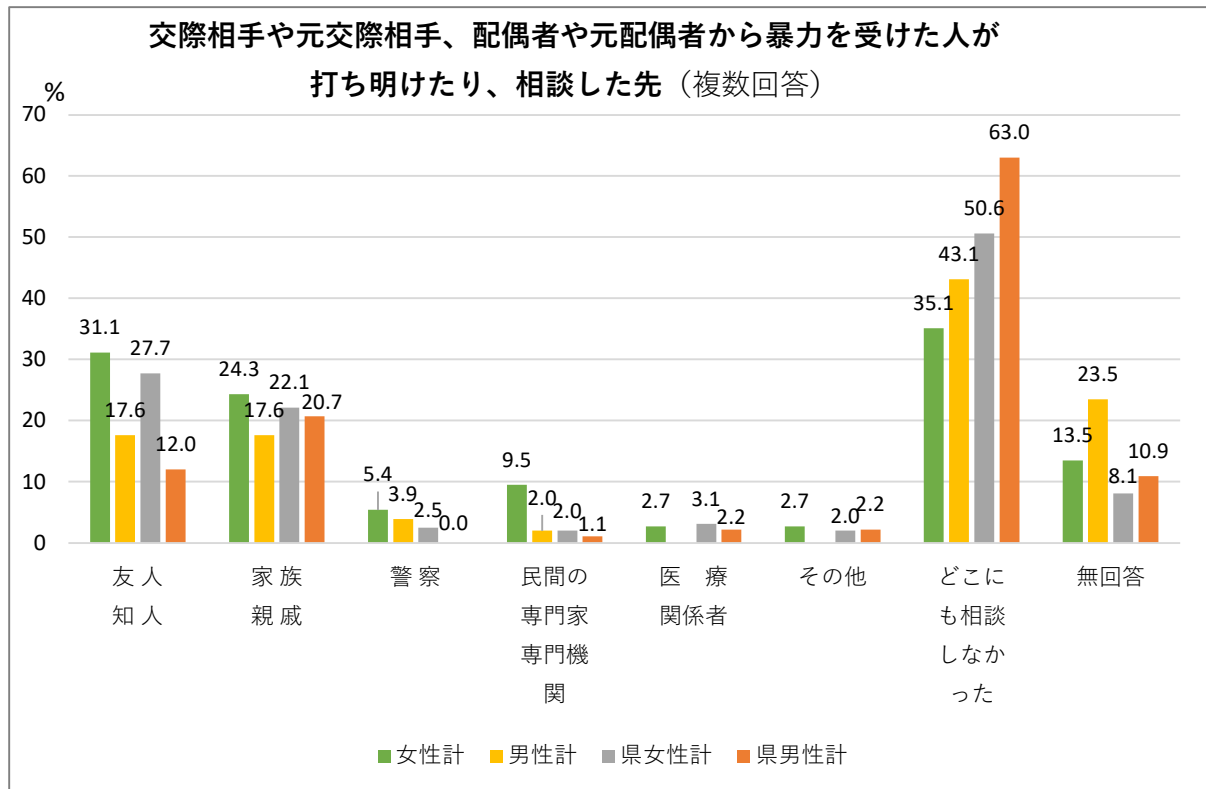
- ・ 結婚経験者（事実婚を含む。）は男女とも、『身体的暴力』、『精神的暴力』、『性的暴力』の順に配偶者や元配偶者から暴力を受けた経験が「何度もあった」又は「1、2度あった」と回答した割合が高い。それらのいずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合は、女性で9.8%、男性で2.3%。
- ・ 「無回答」の割合が高く、特に『精神的暴力』と『性的暴力』では男女とも4割、40代女性は5割を超え、実際に暴力を受けた経験のある人の割合は、調査結果より高い可能性がある。
- ・ 身体的暴力及び精神的暴力で「何度もあった」と回答した割合が高いのは、70代女性。
- ・ 性的暴力では、「何度もあった」と回答した割合が高いのは40代女性。
- ・ いずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合が高いのは70代と60代の女性で、「1、2度あった」を合わせると、それぞれ3割と2割を超える。男性で「何度もあった」と回答した人はほとんどない。



注：前回調査の「無回答」には「全くなかった」を含む。

(3) 暴力を受けたときの相談先

- ・ 恋人や元恋人、配偶者や元配偶者から暴力や嫌がらせを受けた経験があると回答した人の相談した先については「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合が男女とも最も高く、次いで「友人・知人」、「家族・親戚」。女性より男性の方が、相談していない。
- ・ 役場に相談した人はいなかった。

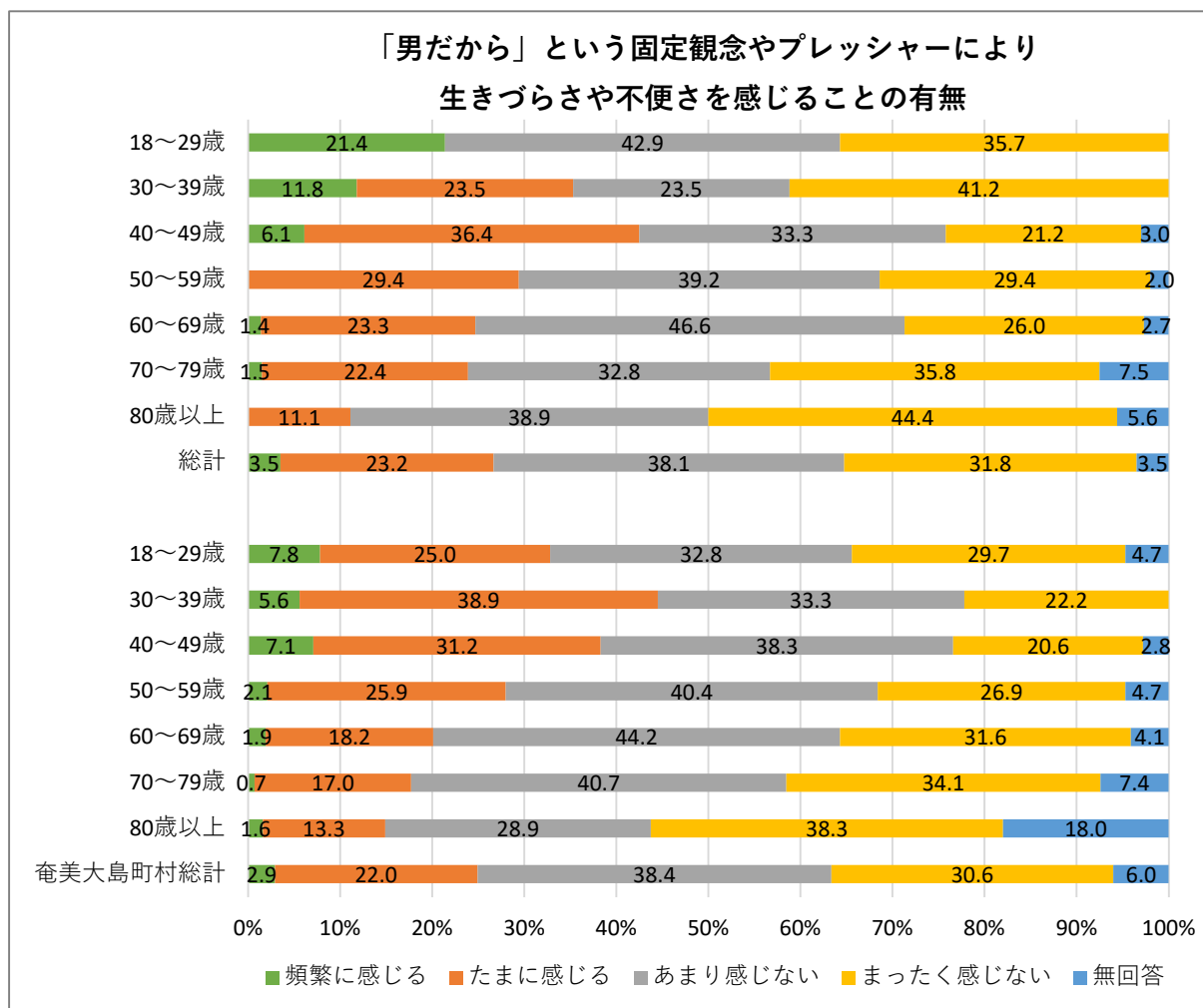


※本町の回答率が0%、県の回答率も2%未満の「学校関係者」「法務局・人権擁護委員」「配偶者暴力相談支援センター等」「市町村等その他公的機関」はグラフから省略

8 男性の生きづらさや不便さについて

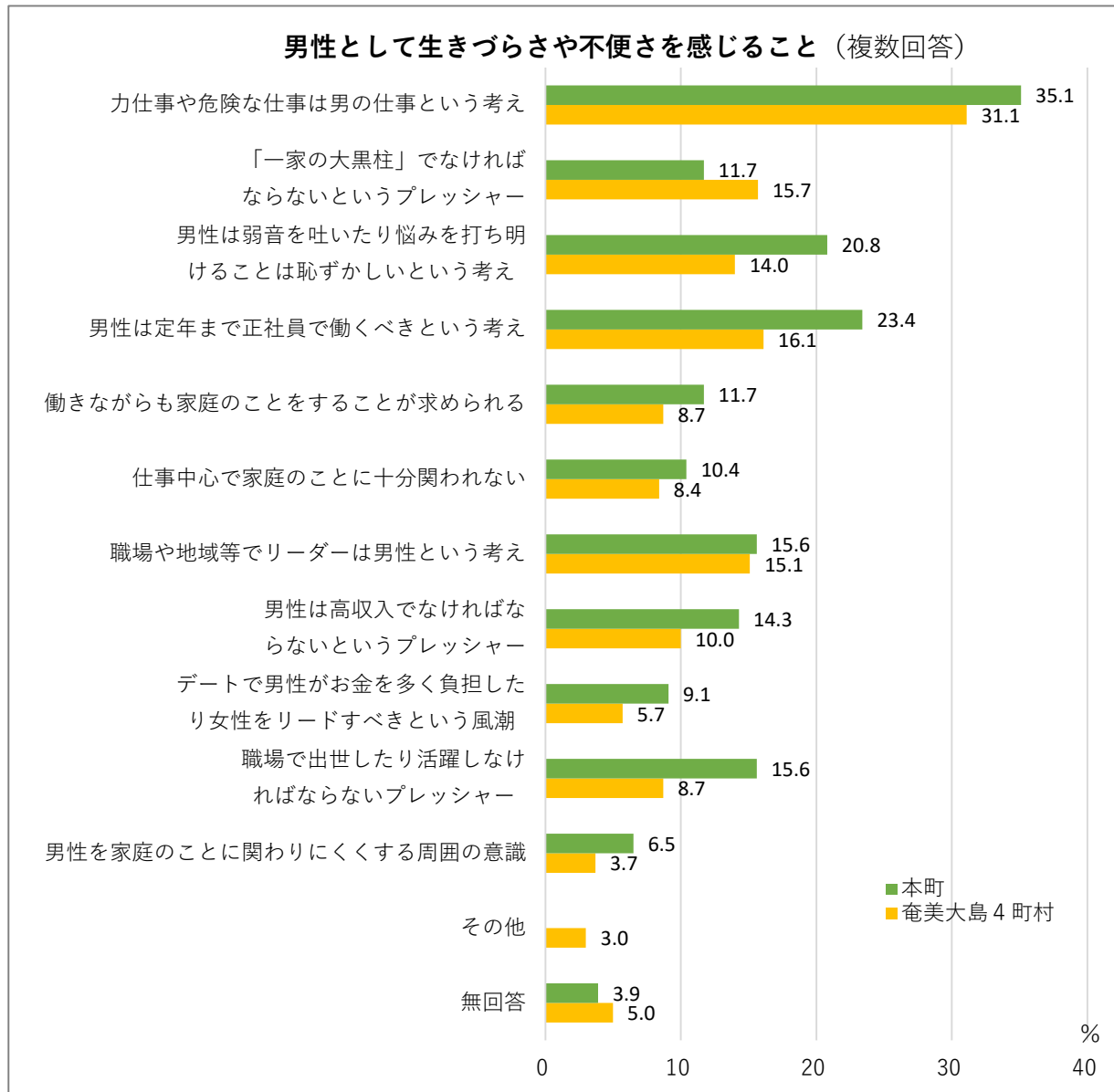
(1) 男性としての生きづらさや不便さの有無

- ・ 職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さ（以下「男性としての生きづらさや不便さ」）について、「頻繁に感じる」又は「たまに感じる」（以下『感じる』）と回答した割合は4分の1。
- ・ 『感じる』と回答した割合は、30・40代が高く、年代が高くなるほど低くなる。
- ・ 奄美大島4町村と比較すると、『感じる』割合は30代以下で下回り、40～70代は上回っている。
- ・ 「未婚」の人(47.5%)や「非正規雇用者」(32.2%)は『感じる』割合が高い。（グラフ省略）



(2) 男性として生きづらさや不便さを感じること

- ・ 「男性としての生きづらさや不便さ」を『感じる』と回答した男性が、そう感じることで多いのは『力仕事や危険な仕事』、『定年まで正社員』、『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』。
- ・ 奄美大島4町村と比較すると、『定年まで正社員』、『職場で出世や活躍』、『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』をはじめ、ほとんどの項目で回答率が上回っている。
- ・ 「結婚している(事実婚を含む)」人と「正規雇用者」は、『定年まで正社員』と回答した割合が高い。
(グラフ省略)



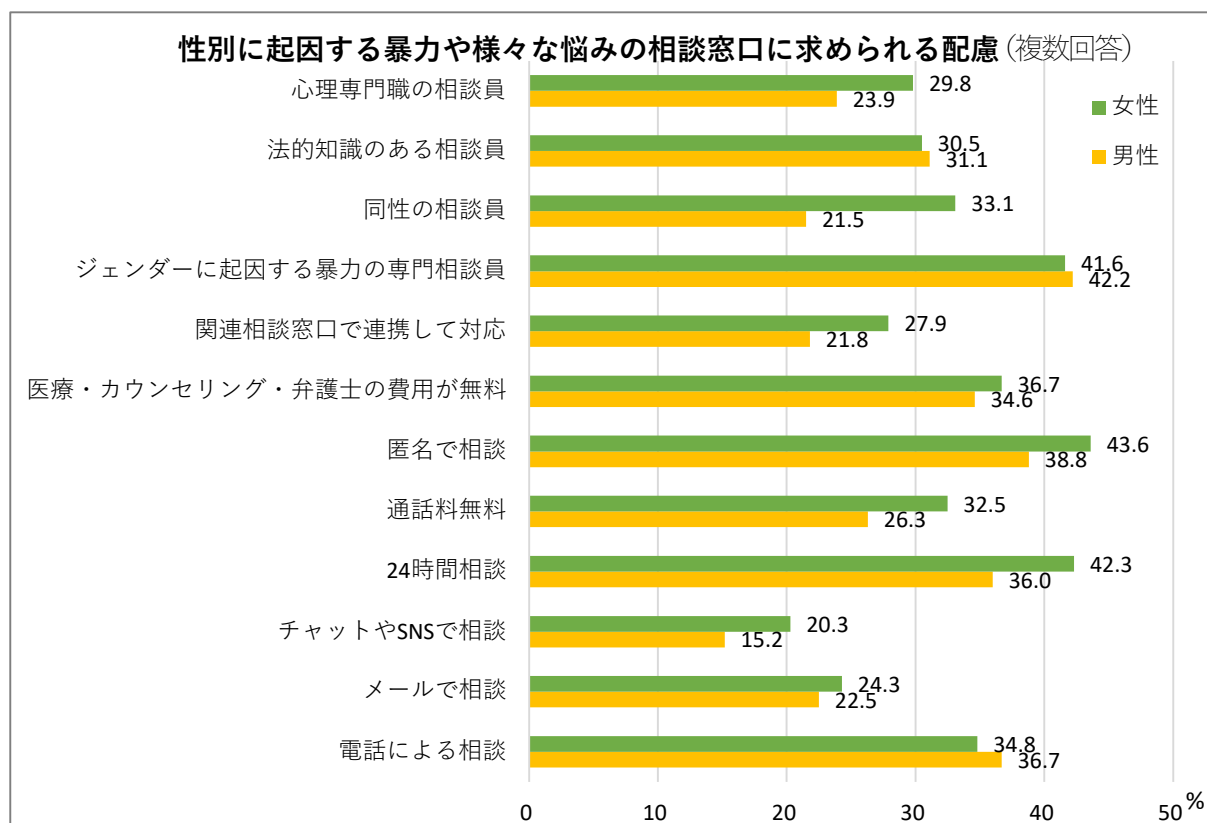
※男性として生きづらさや不便さを感じたエピソード

- ・ 男性は率先して物事に取り組むべきという雰囲気(20代男性)
- ・ まだまだ島の人の考え方は古く、保守的で、何かチャレンジしようとしても「無理だ」「できない」がまず出てくる。島愛が強いので固執しやすい。(40代男性)
- ・ 特別何かあるわけではないが、周囲の無言の圧力を感じる。(50代男性)
- ・ 年齢が年齢だけに、今の世の中についていけない。(70代男性)
- ・ 病気になった時(70代男性)

9 生活上の困難について

(1) 相談窓口に必要な配慮

- ・ 性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などにおける必要な配慮については、ほとんどの項目について、女性の方が男性より回答した割合が高い。
- ・ 男女とも『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』、『匿名で相談可能』、『24 時間相談』と回答した割合が高く、女性は 4 割を超える。
- ・ 40 代は全年代の中で配慮へのニーズが最も高く、全ての項目で回答した割合が 3 割を超え、『匿名で相談可能』と『24 時間相談』は約 6 割。次にニーズが高いのは 30 代。
- ・ 『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』は広い年代でニーズが高い一方、『24 時間相談』、『通話料無料』及び『チャットや SNS で相談可能』は 30 代以下、『匿名で相談可能』と『メールで相談』は 30～50 代が、他の年代よりニーズが高い。



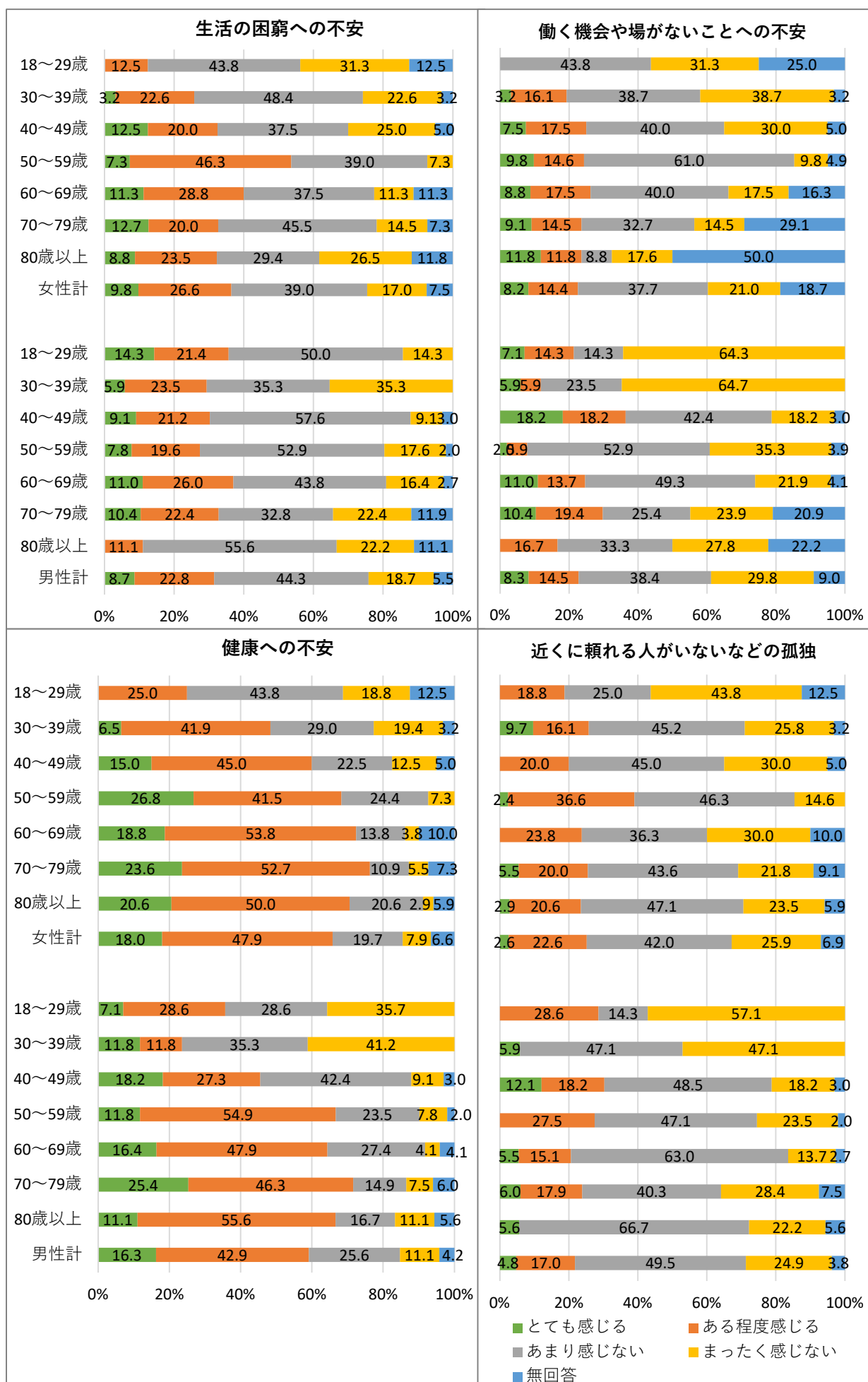
性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口等に求める配慮（複数回答） 単位：%

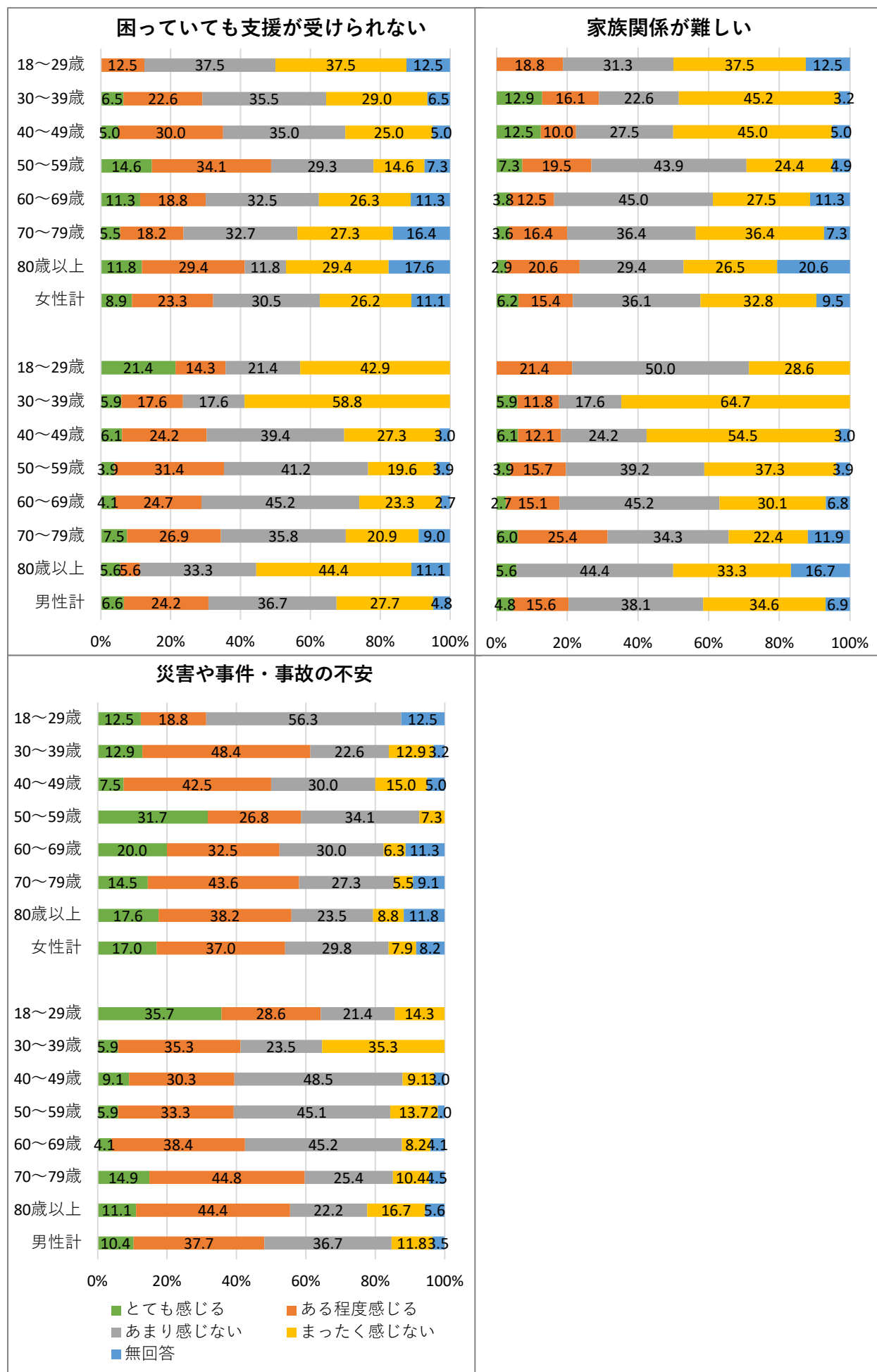
	電話による相談	メールで相談	チャットやSNSで相談	24時間相談	通話料無料	匿名で相談	医療・カウンセリング・弁護士が無料	関連相談窓口で連携して対応	ジェンダーに起因する暴力の専門相談員	同性の相談員	法的知識のある相談員	心理専門職の相談員
総計	34.9	22.9	17.5	38.6	28.8	40.5	34.9	24.4	41.2	26.9	30.3	26.5
18～29歳	30.0	23.3	36.7	60.0	46.7	36.7	60.0	23.3	40.0	23.3	13.3	30.0
30～39歳	22.9	37.5	41.7	58.3	47.9	66.7	37.5	25.0	41.7	54.2	37.5	39.6
40～49歳	41.1	35.6	35.6	58.9	41.1	60.3	56.2	32.9	52.1	45.2	47.9	32.9
50～59歳	43.5	39.1	22.8	39.1	35.9	46.7	40.2	29.3	48.9	31.5	39.1	43.5
60～69歳	35.9	19.6	10.5	34.0	19.0	34.0	32.0	28.8	45.8	21.6	28.8	21.6
70～79歳	34.4	8.2	4.1	27.9	23.0	28.7	24.6	14.8	28.7	14.8	20.5	14.8
80歳以上	28.8	11.5	3.8	23.1	19.2	30.8	13.5	15.4	34.6	15.4	17.3	11.5

(2) 生活上の不安や困難

- ・ 生活の場面で不安や困難を「とても感じる」と回答した割合は、『健康』が最も高く、次いで『災害や事件・事故』、『生活の困窮』。「ある程度感じる」を合わせる（以下「感じる」）と、それぞれ6割と5割を超える。
- ・ 不安や困難を「感じる」と回答した割合は、ほとんどの項目で男性より女性が高いが、その差が最も大きい『災害や事件・事故』の「とても感じる」でも6.6ポイントと、男女の差は小さい。
- ・ 不安や困難を「感じる」と回答した割合は、ほとんどの項目で奄美大島4町村を上回る。
- ・ **生活の困窮の不安**について、「とても感じる」と回答した割合は女性9.8%、男性8.7%で、「感じる」は女性36.4%、男性31.5%。29歳未満の男性と40・70代女性が「とても感じる」と回答した割合が高い(14.3%、12.5%、12.7%)が、「感じる」は50代女性が最も高く5割超。「単身」と「離別・死別」の男性は、「とても感じる」と「感じる」と回答した割合がそれぞれ約2割と約5割。
- ・ **十分に働けていない・働く場や機会がないことへの不安・困難**について、男女とも「とても感じる」と回答した割合は約8%、「感じる」は約22%。40代男性は「とても感じる」が18.2%で最も高く、「感じる」は「未婚」の男性と同じ約36%。
- ・ **健康への不安**について、「とても感じる」と回答した割合は女性18.0%、男性16.3%、「感じる」は女性65.9%、男性59.2%。年代が高いほど不安を感じる割合が高い傾向にあり、70代の男女は「感じる」が7割を超える。「離別・死別」の女性と「未婚」男性も、それぞれ約8割と約7割で高い。
- ・ **孤独への不安**について、「とても感じる」と回答した割合は女性2.6%、男性4.8%、「感じる」は女性25.2%、男性21.8%。「とても感じる」と回答した割合が高いのは、40代男性と30代女性(12.1%と9.7%)だが、「感じる」は50代女性が最も高く約4割。「単身」と「離別・死別」の男性も「感じる」割合は高く、4割超。
- ・ **困っていても、支援が受けられないことへの不安や困難**について、「とても感じる」と回答した割合は、女性8.9%、男性6.6%、「感じる」は女性32.2%、男性30.8%。「とても感じる」と回答した割合は29歳以下の男性(21.4%)と50代女性(14.6%)が高く、「感じる」は35.7%と48.7%。80代女性、「未婚」と「離別・死別」の男性も「感じる」割合が高く、4割を超える。
- ・ **家族との関係の難しさ**を「とても感じる」と回答した割合は、女性8.9%、男性4.8%、「感じる」はともに約15%。「とても感じる」と回答した割合は30代女性が高く12.9%、その「感じる」割合は29.0%。70代と「離別・死別」の男性も「感じる」割合は高く、それぞれ約3割と約4割。
- ・ **災害や事件・事故の不安**を「とても感じる」と回答した割合は、女性17.0%、男性10.4%、「感じる」は、女性54.0%、男性48.1%。「とても感じる」と回答した割合が高いのは、29歳以下の男性と50代女性で3割超。「感じる」は、それぞれ64.3%と58.5%で、30代女性と70代男女も「感じる」割合は高く約6割。

※奄美大島4町村、結婚や世帯の状況別のグラフは省略

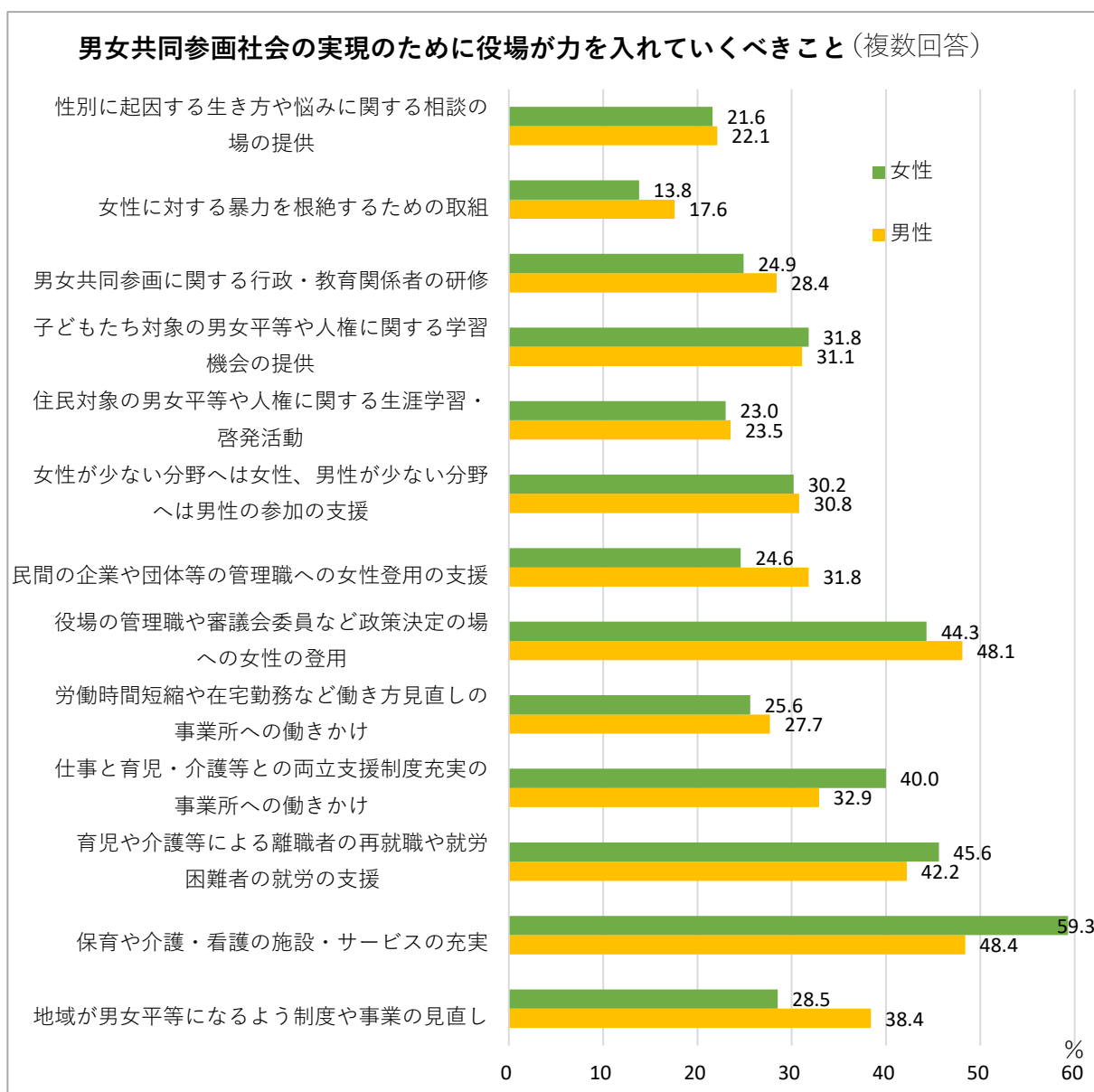




10 男女共同参画施策について

男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと

- ・ 男女共同参画社会の実現のために役場が力を入れるべきことについては、『保育・介護サービスの充実』、『政策決定の場への女性登用』、『再就職や就労支援』と回答した割合が男女とも高く、特に『保育・介護サービスの充実』と女性の約6割が回答。これら3項目は、男女とも広い年代で回答した割合が高い。
- ・ 40代女性は、ほとんどの項目で他の性・年代より回答した割合が高く、役場への期待が大きい傾向がみられる。
- ・ 『仕事と育児・介護等との両立支援制度充実の事業所の働きかけ』は、30・40代女性で5割を超えている。
- ・ 『子どもへの男女平等・人権に関する学習機会の提供』は、40代男女で4割を超える。
- ・ 『地域が男女平等になるよう制度や事業の見直し』は、30・40代男性で4割を超える。



男女社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと（複数回答）

単位：％

	地域が男女平等になるよう制度や事業の見直し	保育や介護・看護の施設・サービスの充実	育児や介護等による離職者の再就職や就労困難者の就労の支援	仕事と育児・介護等との両立支援制度充実の事業所への働きかけ	労働時間短縮や在宅勤務など働き方見直しの事業所への働きかけ	役場の管理職や審議会委員など政策決定の場への女性の登用	民間の企業や団体等の管理職への女性登用の支援	女性が少ない分野へは女性、男性が少ない分野へは男性の参加の支援	住民対象の男女平等や人権に関する生涯学習・啓発活動	子どもたち対象の男女平等や人権に関する学習機会の提供	男女共同参画に関する行政・教育関係者の研修	女性に対する暴力を根絶するための取組	性別に起因する生き方や悩みに関する相談の場の提供
総 計	32.6	52.9	43.0	35.7	26.0	45.1	27.7	30.0	22.7	30.8	26.0	15.3	21.4
女性計	28.5	59.3	45.6	40.0	25.6	44.3	24.6	30.2	23.0	31.8	24.9	13.8	21.6
18～29歳	37.5	62.5	37.5	37.5	43.8	37.5	18.8	25.0	18.8	37.5	12.5	12.5	25.0
30～39歳	32.3	61.3	41.9	54.8	29.0	41.9	32.3	38.7	22.6	32.3	19.4	9.7	19.4
40～49歳	37.5	60.0	57.5	55.0	40.0	57.5	40.0	47.5	25.0	47.5	35.0	35.0	27.5
50～59歳	39.0	56.1	48.8	48.8	26.8	39.0	26.8	36.6	26.8	24.4	29.3	12.2	22.0
60～69歳	21.3	66.3	42.5	40.0	25.0	53.8	21.3	26.3	23.8	32.5	23.8	13.8	18.8
70～79歳	27.3	47.3	43.6	23.6	18.2	36.4	14.5	25.5	20.0	27.3	25.5	7.3	29.1
80歳以上	14.7	61.8	38.2	26.5	11.8	35.3	26.5	20.6	23.5	23.5	23.5	5.9	8.8
男性計	38.4	48.4	42.2	32.9	27.7	48.1	31.8	30.8	23.5	31.1	28.4	17.6	22.1
18～29歳	35.7	50.0	42.9	21.4	57.1	14.3	7.1	21.4	7.1	14.3	7.1	7.1	50.0
30～39歳	47.1	52.9	29.4	47.1	29.4	41.2	35.3	41.2	29.4	11.8	35.3	23.5	29.4
40～49歳	45.5	36.4	45.5	39.4	36.4	42.4	30.3	39.4	21.2	42.4	21.2	18.2	30.3
50～59歳	37.3	45.1	49.0	35.3	25.5	47.1	35.3	23.5	17.6	25.5	17.6	17.6	21.6
60～69歳	32.9	47.9	35.6	28.8	21.9	49.3	27.4	34.2	19.2	34.2	24.7	19.2	17.8
70～79歳	37.3	47.8	38.8	31.3	23.9	55.2	32.8	29.9	26.9	29.9	38.8	16.4	13.4
80歳以上	27.8	77.8	55.6	22.2	16.7	44.4	38.9	33.3	44.4	38.9	38.9	11.1	16.7

11 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望

男女共同参画社会を実現するために今後役場が力を入れていくべきことについて寄せられた意見等（59 件）のうち、主な意見（一部は抜粋や集約をしています。）

■男女共同参画に関する考え方（意識・風潮）（16 件）

- ・ 男女関係なく、自分のやりたいこと、能力を発揮できることに取り組めるようになってほしい。(30 代女性)
- ・ 理想と現在とはかけ離れているが、周りの人との関係を良好に、互いの人権が尊重される生活をしたい。(40 代女性)
- ・ 本人が選択した生き方をしていければ良い。(40 代男性)
- ・ 町民のジェンダーに関する理解が低い。シンパシーからエンパシーへ共感できるといい。(50 代女性)
- ・ 「男性、女性」ではなく能力本位で物事を進めれば、ある程度問題は解決できると思う。(50 代男性)
- ・ 男女問わず人格的な特性の考慮が必要(50 代男性)
- ・ 若い人達は男女平等は当たり前で意識していないが、昭和生まれの社会通念がまだまだ崩せない。(60 代女性)
- ・ 女一人では無理と言われながら自営を続け、結婚していないだけで信用してもらえず、理不尽な事はたくさんあった。今も変わっていない気がする。(60 代女性)
- ・ 男女同じ仕事をやるのか、男女平等とは何なのか教えてほしい。(70 代男性)
- ・ 女性は両立、三立、五立、ボランティア！賃金が安い。国も政治もできないから、この先も男女平等は無理で悲しい。(年代不明女性)

■子育て・介護（3 件）

- ・ 働いていなくても保育所に預けられるようにしてほしい。女性の社会進出を推進する前に、家事・育児への男性の参加を推進してほしい。1.職場での男性の育児等参加の理解向上 2.男性の家事・育児への参加 3.女性の社会進出のサポートを解決しないと、女性は家事・育児・仕事のトリプルワークで苦しい。(30 代女性)
- ・ 「海の駅」にある保育施設に、夕方や土日の保育所が休みの日に預けられたらいいと思う。(40 代女性)
- ・ 女性は仕事だけではなく、子どもや家族のために社会参加しなければいけないことがたくさんある。それに介護などが加わると精神的・身体的に無理が出てくるが、仕事を休むと生活が困窮してしまう。(50 代女性)

■職場・労働（11 件）

- ・ 法律や政策の整備、育児・介護休業など(10 代男性)
- ・ 男性の育休取得をもっと進めてほしい。(30 代女性)
- ・ 奄美は仕事の休みが非常に少ない。週休 2 日にして心身を整え、家族・友人と過ごす、男女（人）は尊重し合える(40 代女性)
- ・ 子どもを預けられるサポートがもっと充実したら妻は希望すれば仕事ができるのに、時間や金銭面で難しい。(40 代男性)
- ・ 個人は能力に応じて仕事をし、職場は能力を評価する必要がある。育児、介護、家事は家族で話し合い分担すべき。(50 代男性)
- ・ 優秀な人材（特に女性）の採用(60 代女性)
- ・ あらゆる仕事に女性も同じように就けるといい。(60 代男性)
- ・ 高齢者も、歳だから、女だから、仕事がないからと家にいないで、外に出て一緒に働きましょう。(70 代男性)
- ・ 1990 年代に社内で男女不平等の実態を分析し、解消策を提案するために「女性フォーラム」を組織。その活動報告を全社大会で行った後、社員教育の平等化、昇級・給与制度の改革が始まった。(80 歳以上男性)
- ・ 男(女)性優位の職業に「女(男)性枠」を設けず、能力や情熱のある人が就ければいい。(年代不明女性)
- ・ みんなのために出産していると考えれば、女性の出産休は幾分キャリアに算定していいと思う。(年代不明男性)

■教育・学習・啓発（6 件）

- ・ 女性も男性も一人ひとりが大切にされるように、様々な在り方・生き方を認め合えたらうれしい。セクシュアルマイノリティの方も自己を否定せず、「あたりまえ」に生きられますように。変わらないとあきらめるのではなく、大人がまず研修等で学んで変わること、子ども達はよりよく生きることができる。一人ひとりがかけがえのない人生を歩めるように願っている。(40 代女性)
- ・ 男女共同参画社会とはどういうことか町民が学び・知ってほしい。(50 代・年代不明女性)
- ・ お互いを「個」として尊重する意識を育む教育を小さい頃から継続して行うことが大事（基本）。(60 代女性)
- ・ 学校での男女共同参画に関する教育が必要(60 代男性)
- ・ 奄美では男性がもっと男女共同参画について学ぶための機会を作るべき。(70 代女性)

■地域活動や政治・行政の場（4件）

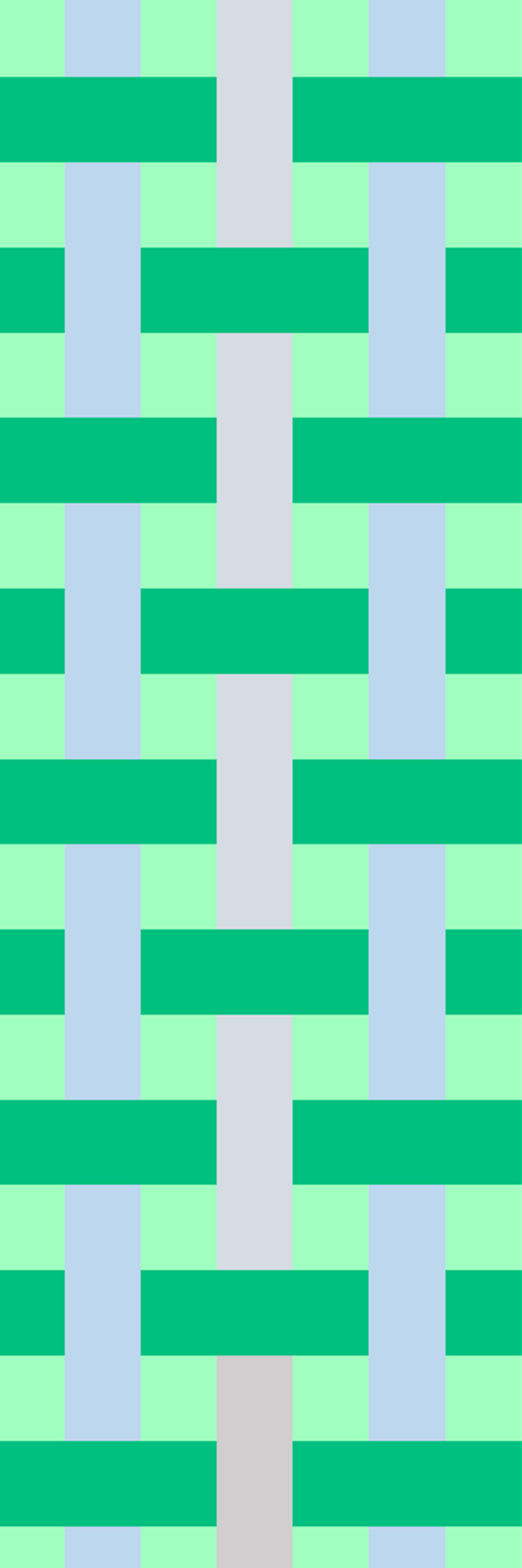
- ・政治家や経済の場に女性を増やして欲しい。(30代女性)
- ・女性自身の意識も高めていくことが必要。そのモデルとなるのが役場の女性登用であると思う。(60代女性)
- ・女性の社会的地位の向上と政治への女性の意見の反映のため、地方自治体・国の議会議員の男女比率を原則半々とする世論づくりをすべき。(70代男性)
- ・町議の数を男女が半々位にする。(70代男性)

■取組の方向・方策（15件）

- ・女性の地位向上だけでなく、男性の負担軽減の目標もあって良い。(30代男性)
- ・男女を分けることで不平等が育つ。「個」（「個人」であり、「一つの場所」）と「個」をつなげる政策を。(30代男性)
- ・実施する人がきちんと理解する。(40代男性)
- ・男女共同参画という名称を変えてほしい。(40代・50代男性)
- ・瀬戸内町（奄美？）では、女性は活動に参画することを遠慮したり周りを気にする傾向がある。得意な分野で能力を発揮できる場があることを発信して欲しい。能力のある女性はたくさんいるが、その能力を社会で活かしていない。(50代女性)
- ・役場の方は一般の方の話をきちんと聞いて、議会にあげて話し合いをし、瀬戸内町のために新時代を築いていきましょう。(50代女性)
- ・公の場に出て男女共同参の普及活動してほしい。(50代男性)
- ・思い描いていたことが実現へ向けてスタートラインに立てたことをうれしく思う。まずは役場職員が部署を超えてコミュニケーションを取り、先頭になり住民を引っ張ってほしい。私も一町民として出来る事は実行したい。男女共同参画で元気に生き生きと生活できる町に近づくことを願っている。(60代女性)
- ・差別しない社会の実現に向けて官民一体となって努力すべし。(70代男性)
- ・特に高齢者の意識の改革(70代男性)
- ・管理職や住民の男女平等や人権についての意識改革が必要。(80歳以上女性)

■調査・その他（4件）

- ・男性か女性かと質問することも、デリケートな質問であることと認識して欲しい。(40代女性)
- ・意味のあるアンケート結果にして下さい。(50代男性)



計画・報告書	QR コード
瀬戸内町男女共同参画推進総合計画	
瀬戸内町男女共同参画推進総合計画 【概要版】	
瀬戸内町男女共同参画に関する住民意識調査報告書	
瀬戸内町男女共同参画に関する住民意識調査結果の概要	
瀬戸内町男女共同参画に関する住民意識調査報告書【概要版】	

関係する計画や報告書は、町のHPに掲載しています。

瀬戸内町企画課

〒894-1506 鹿児島県大島郡瀬戸内町船津 23

TEL : 0997-72-1111

E-mail : kikaku@town.setouchi.lg.jp